物流・ロジスティクスにおける

人材育成支援ガイド 2018

― 人材育成は、企業の盛衰を決める最大の経営戦略 ―

公益社団法人
日本ロジスティクス システム協会
JAPAN INSTITUTE OF LOGISTICS SYSTEMS

目　次

◆日本ロジスティクスシステム協会は、人材育成のお手伝いをします …… 3

◆人材育成支援メニュー …… 4〜36

領域区分 …… 4〜5
人材育成の進め方 …… 6〜7
人材育成モデルイメージ …… 8〜9
荷主企業 …… 10〜11
物流企業 …… 12〜13
日本ロジスティクスシステム協会の資格制度 …… 14〜15
ロジスティクス経営士資格認定講座 …… 16
物流技術管理士資格認定講座 …… 17
物流技術管理士補資格認定コース …… 18
ロジスティクス基礎講座 …… 18
国際物流管理士資格認定講座 …… 19
物流現場改善士資格認定講座 …… 20
ストラテジックSCMコース …… 21
物流センター長のための組織対応力強化実践コース …… 22
セミナー 一覧 …… 23〜24
セミナーMAP …… 25
各種セミナーのご案内 …… 26〜33
物流教育DVD …… 33
社内教育・コンサルティング・通信教育 …… 34
ビジネス・キャリア検定試験・ロジスティクス分野（ロジ検定） …… 35
人材育成のための支援ツール（手引書など） …… 36

◆企業事例から学ぶ …… 37〜38

先進事例から学ぶ（講演会・研究会など） …… 37〜38

◆物流現場改善活動に取り組もう！ …… 39〜41

物流改善事例から学ぶ（改善事例発表会など） …… 40
物流施設を見学して学ぶ …… 40〜41

◆最新の調査結果より学ぶ …… 41

◆ロジスティクスコンセプト2020 …… 42

◆入会のご案内 …… 42

◆パンフレット送付依頼フォーム …… 43

公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会は
人材育成のお手伝いをします

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会（JILS）は、ロジスティクスのナショナルセンター（国内唯一のロジスティクス専門機関）として、 企業の生産性向上に寄与するとともに、多くの企業の連携・協働によって社会共有価値を創出し、持続可能な発展を目指します!!

JILSのミッション	ロジスティクスの高度化と普及推進を通じた、わが国産業界の発展と国民生活の向上、国際社会への貢献
JILSの活動領域	○ロジスティクスに関する調査・研究　○ロジスティクスシステムの普及・提言活動 ○体系的な人材教育の実施　○海外関係機関との情報交流　など

産業界が抱えるさまざまな課題

ロジスティクス高度化へのステップ

1 物流レベルでの対応
ロジスティクス・物流部門における業務改善

2 ロジスティクスレベルでの対応
調達・企画設計・生産・販売部門等との連携による取り組み

3 サプライチェーンレベルでの対応
原材料の調達先から最終顧客まで含めた連携による取り組み

企業価値向上のためのJILSが提供する課題解決の場

会員メンバーとの情報交流、ヒューマンネットワークの構築

テーマ別／業界別研究会
・食品ロジスティクス研究会　・ロジスティクスシステム研究会　・物流子会社懇話会　など

経営戦略や最新のロジスティクス高度化事例などの情報収集

講演会
・ロジスティクス全国大会　・ロジスティクス関西大会
・中部ロジスティクス講演会　・九州ロジスティクス講演会　など

調査結果やデータベースの活用による自社課題の分析・把握

調査／研究
・物流コスト調査　・ロジスティクス経営指標調査　など

ロジスティクスの専門知識やマネジメント技術の習得

資格認定講座／テーマ別セミナー
・物流技術管理士資格認定講座　・ロジスティクス経営士資格認定講座　など

経営の効率化に向けたロジスティクス改革の推進

企業別研修／コンサルティング
≪企業の個別ニーズに対応したオーダーメイドの教育プログラム≫

優れたロジスティクス活動の顕彰

表彰制度
・ロジスティクス大賞　・物流合理化賞

ロジスティクスに関する最新の機器・システム・サービス等を広く産業界にPR

展示会事業
・国際物流総合展　・ロジスティクスソリューションフェア

ロジスティクスの課題解決に向け、JILSが提案する7つの指針

01 ロジスティクスの統合管理による全体最適化・競争力強化

調達物流、需給管理、製品・包装設計などを含めた連携・統合により全体最適化を実施し、ロジスティクススペシャリストの育成や、物流コスト・KPI管理などの経営情報の整備を行います。

02 サプライチェーン効率化のための企業間連携の促進

販売、需要、在庫、物流ステータスなどの情報共有と取引条件の合理化によりサプライチェーンの効率化を図ります。

03 サプライチェーンのグローバル化への対応

管理組織の国内・海外一体管理への転換、人材グローバル化等の、ロジスティクスマネジメントのグローバル化を推進いたします。

04 国内物流量減少等の社会構造変化への対応

「量から質へ」の転換や高付加価値サービスの提供、企業間連携による効率化など、持続可能な社会の発展を目指します。

05 情報化社会への対応

情報システム、自動認識技術の活用や最適化により、情報環境の変化に対応した物流サービスや物流システムの活用を行います。

06 リスクマネジメントへの対応

自然災害、テロ、犯罪等のリスクに対し、企業連携、調達分散、官民協力などによって対応します。

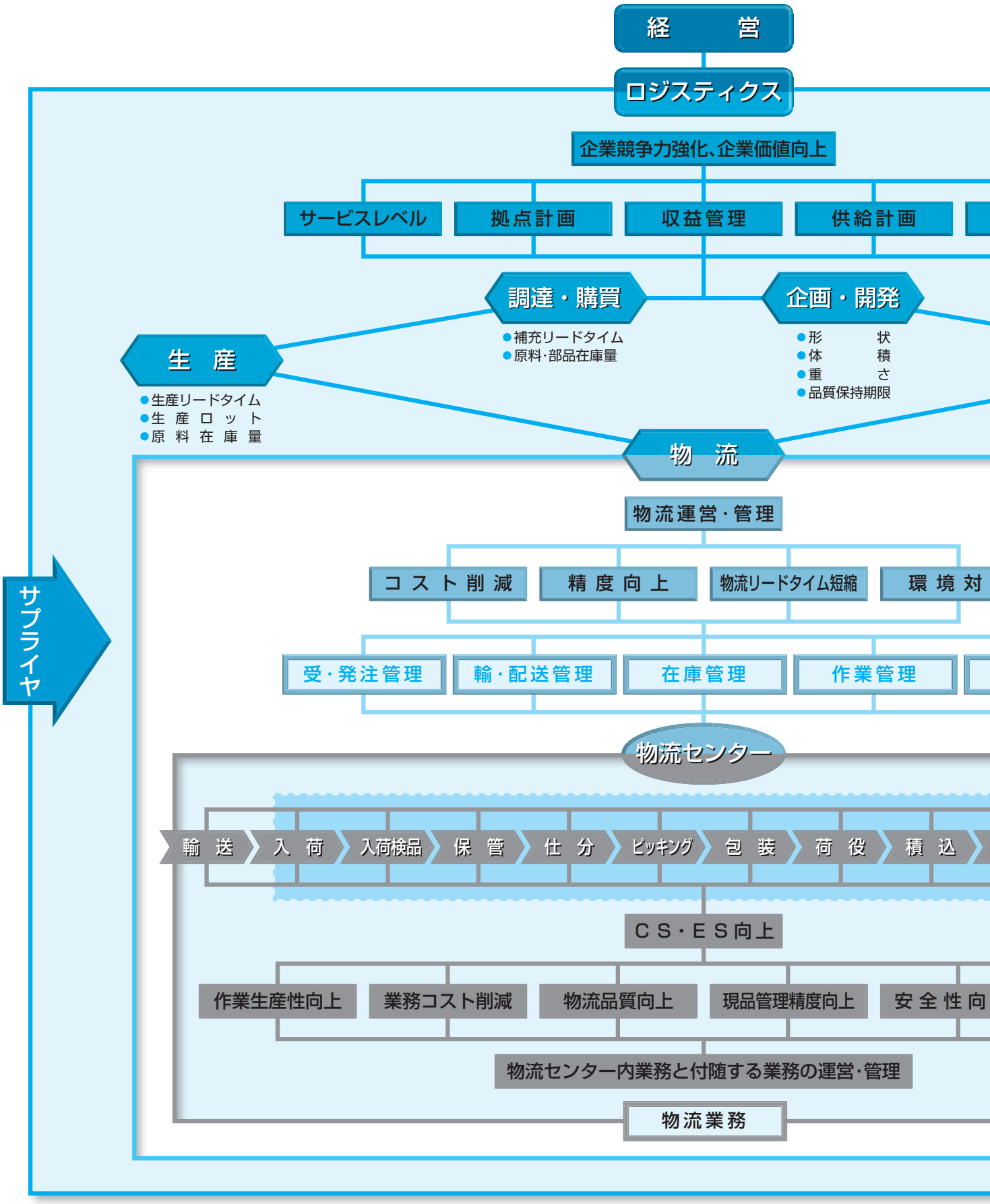
07 環境問題・CSR等への対応

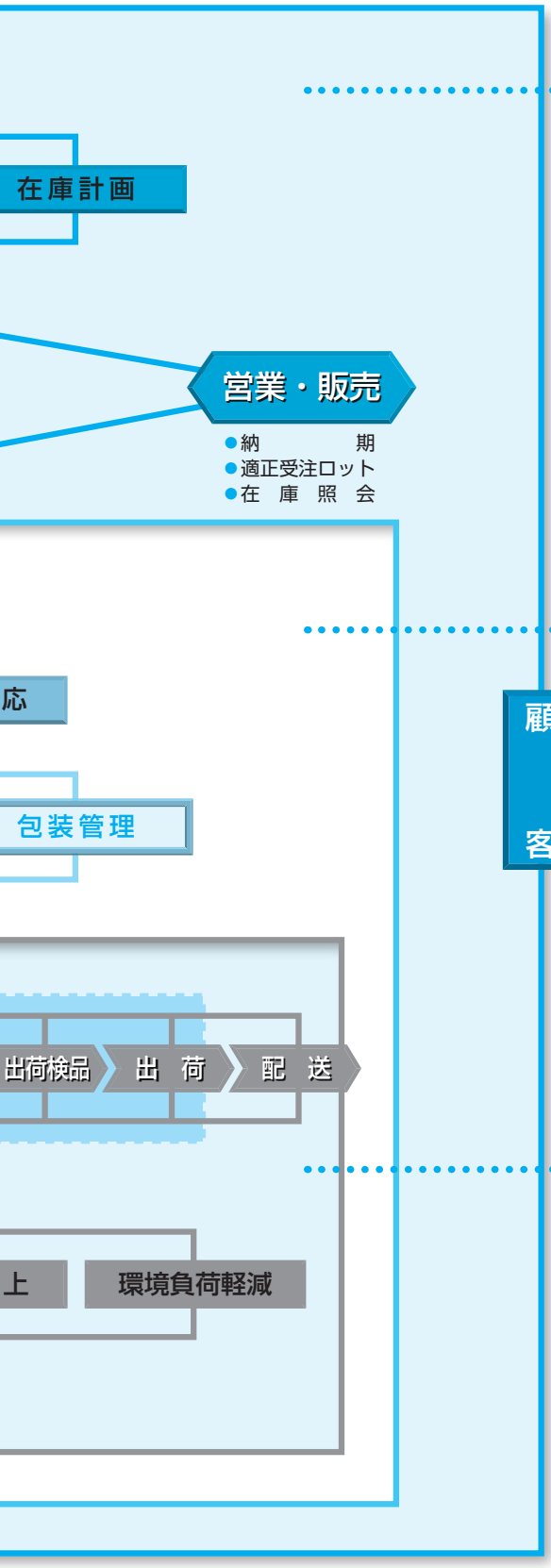
省エネ対策、環境負荷軽減、法令順守、在庫等会計情報の正確性・トレーサビリティ確保などを支援します。

領域区分

「ロジスティクス」「物流」「物流業務」の３領域に区分して、「ロジスティクス」を構成する１つの業務を「物流」とし、「物流」のなかで物流センター内業務と付随する業務を「物流業務」としています。

「物流現場改善推進のための手引書（改訂版）」では「物流業務」の改善を「物流現場改善」と位置づけています。





【領域の区分】

ロジスティクス	
対象範囲	企画・開発、生産、物流、営業、販売を統合した範囲が対象
対象業務	企画・開発、調達・購買、生産、物流、営業・販売
関係部門	部門横断的（協力会社連携）
役　　割	サービスレベル、拠点計画、収益管理、供給計画、在庫計画　など

物　　流	
対象範囲	複数の物流業務および工程を統合した範囲が対象
対象業務	受・発注管理、輸・配送管理、在庫管理、作業管理、包装管理
関係部門	物流部門
役　　割	コスト削減、精度向上、物流リードタイム短縮、環境対応　など

物流業務	
対象範囲	ひとつの作業所（現場）で完結する、小集団が対象
対象業務	輸送、入荷、検品、保管、仕分、ピッキング、包装、荷役、積付、出荷、配送
関係部門	物流センター
役　　割	作業生産性向上、業務コスト削減、物流品質向上、現品管理精度向上、安全性向上、環境負荷軽減　など

人材育成の進め方　～人材育成・教育訓練を始めよう！続け

アプローチ・実施手順

1 ステップ1 組織の現状把握

現状把握

- 実施しようとする従業員の人材育成が、自社の経営理念、経営戦略、人材育成計画と連動しているかを確認することが大切です。
- 「現状把握の仕方がわからない」、「業務が忙しくて把握する時間がない」、「詳細には把握できていないがレベル感は把握している」等という企業も多いと思われますが、従業員の能力の「見える化」は大切です。
- 自社に合った方法で、現状把握を行ってください。

＜現状把握方法＞

① 評価シートの作成・活用
② アンケートの実施
③ 社員面接の実施
④ 社内試験を実施
⑤ 社外の試験の活用
⑥ 日常業務の観察
⑦ 個人・職場の業績（経済的効果）
⑧ 外部機関へ依頼

2 ステップ2 「理想の人材像」の策定とギャップの把握

理想の人材像・能力要件の策定

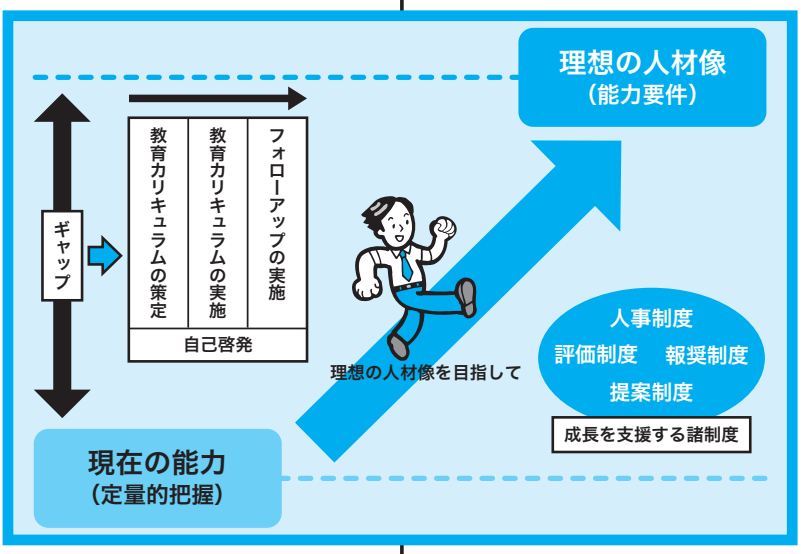
- 「理想の人材像（目標レベル）」を、①企業理念や経営戦略に連動した形で設定、もしくは、②従業員の現況の能力を把握し、不足している能力を補えた状態を目標レベルとして設定してください。
- 理想の人材像の「能力要件」「能力要件定義書」を策定してください。

参考資料

- P8～P9の「人材育成モデルイメージ」
- 「物流現場改善リーダーキャリアアップ診断」
- JAVADAの「職業能力評価基準」
- P4～P5の「領域区分図」
- P10～P13の「整理表（荷主企業／物流企業）」

ギャップの把握

- 従業員の現況の能力レベルを把握し、能力要件（目標レベル）を策定すると、その能力レベルに差（ギャップ）が存在することが見えてきます。
- この差が教育課題となります。この差が生じている原因を究明することが重要になります。



3 ステップ3 教育カリキュラムの策定

必要な知識・スキルの整理

- 能力要件に基づき、領域別（業務・階層等）に求められる知識やスキルを整理し、体系化してください。

カリキュラムの策定

- 従業員の現状の能力と、能力要件（目標レベル）とを比較することにより導き出される知識や技法などを整理し、これらの習得に必要な教育カリキュラムを策定します。

＜カリキュラム策定のポイント＞

① 日常業務の観察、アンケートの実施、従業員面接等による必要な知識や技法の発見
② 外部機関が実施しているセミナーや研修メニューを参照
③ 外部機関へ依頼

教育訓練方法の選択

- 教育訓練方法には、主にOJT(On the Job Training)と、Off-JT(Off the Job Training)があります。実施する際のメリット・デメリットを考慮し、使い分けて実施してください。

本支援ガイドに記載されているのメニューを組み合わせてご

よう！～

4 ステップ4 教育カリキュラムの実施

OJT 実施のポイント

- 日常業務の中でOJTが効率的に行われるためには、環境を整備する必要があります。

＜実施時のポイント＞

① 基本的方針（目的・目標）や、OJT の考え方を周知させる。
② 実施手順を周知させる。
③ 指導にあたる社員（指導者）への教育訓練を実施する。
④ 円滑に実施できるよう、ツール整備（例：マニュアル作成）を行う。

Off-JT 実施のポイント

- 教育訓練には様々な方法（集合研修、通信教育、e-ラーニング等）があり、それぞれの特徴（メリット・デメリット）を理解し、組合せながら効果を最大限にすることが重要です。
- 自社内に社内講師がいない場合は、外部の教育機関や外部講師を活用してください。

＜実施時のポイント＞

① 参加者の動機づけや、参加者が実施前に準備ができるように、事前に開催通知や呼びかけを行う。
② 予算面の制約を考慮しながら、時間的、空間的、環境的要素を配慮し、教育研修の効果が期待できる研修施設を選定する。
③ 研修施設担当者や講師との打合せを密に行う。
④ テキストや教材を準備する。
⑤ 備品（プロジェクター、ホワイトボード等）を準備する。

る、資格認定講座、セミナーなど活用ください。

5 ステップ5 教育カリキュラムの評価とフォローアップ

評価

- 教育訓練の後に理解度や目標達成度等について評価する必要があります。
- 教育訓練を実施した直後に、その効果が現れることは期待できません。そのため、教育訓練終了後、ある一定期間を経過してから事後評価を実施してください。
- 事後評価の指標としては、「理解度」、「実践度」、「貢献度」等が考えられます。

＜事後評価方法＞

① 評価シートの作成・活用
② アンケートの実施
③ 社員面接の実施
④ 社内試験を実施
⑤ 社外の試験の活用
⑥ 日常業務の観察
⑦ 個人・職場の業績（経済的効果）
⑧ 外部機関へ依頼

教育カリキュラム等の見直し

- 社員の能力評価だけではなく、教育カリキュラム、講師、教材等についても評価や見直しを行ってください。

フォローアップの実施

- 従業員が教育訓練の内容を十分に理解し、それを業務で活かすことができているのかを、一度振り返って再確認する必要があります。

6 ステップ6 従業員の成長を支援する体制整備

教育訓練の継続的実施

- 教育訓練を通じて、社員の「やる気」を喚起させ、日々の成長を実感できるようにすることが大切です。また、社員の成長とともに、目標レベルが上がり、新たな課題が発生します。
- そのため「教育予算」を継続的に確保し、教育訓練を実施することよって解決する必要があります。

諸制度の構築

- 従業員を継続的に支援するための諸制度を構築することが重要になります。これにより社内・職場が活性化され、社員のモチベーション向上が図られます。さらには、企業全体に教育する風土が構築されることにも繋がります。

＜例＞

① 自己啓発への援助制度の構築
② 評価制度、表彰制度・昇給・昇格制度、提案制度等の構築 等

教育部門・教育スタッフの配置

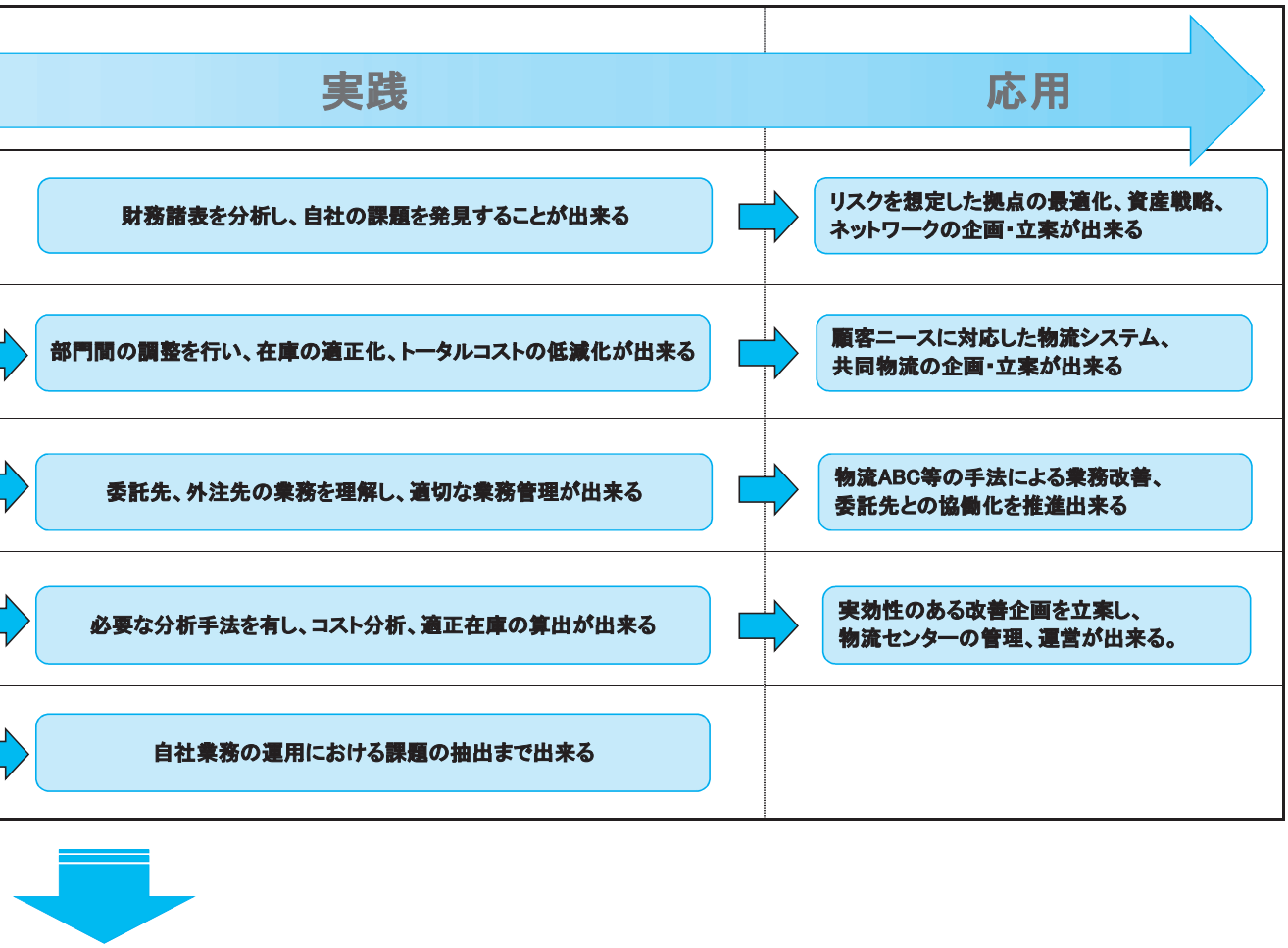
- 教育訓練が継続的、効果的に行われるために、教育部門・教育スタッフを配置することが重要です。専属の部門やスタッフを配置することが困難な場合は、定期的に人材育成や教育訓練について検討を行う機会を設けてください。

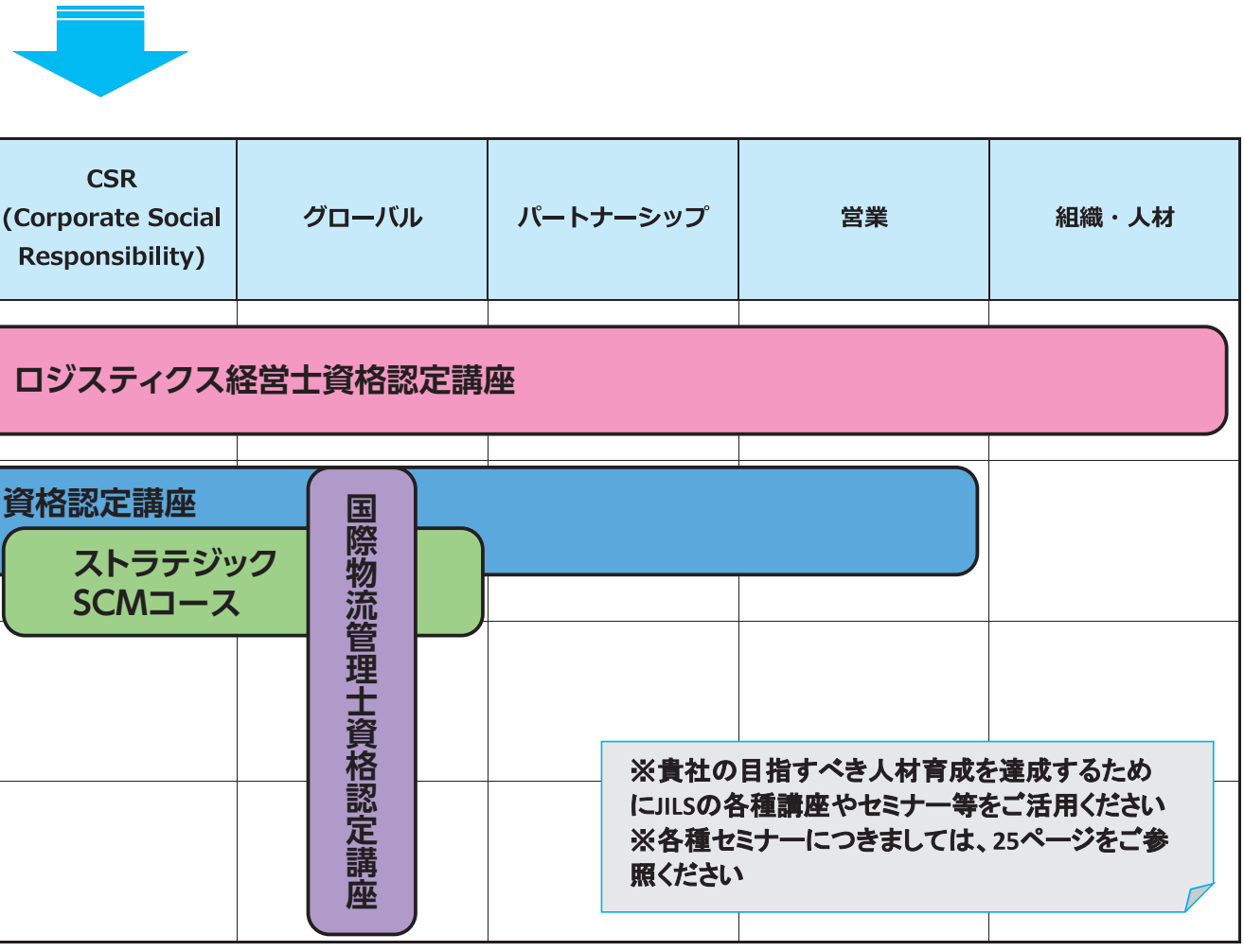
人材育成

	基礎
経営幹部 （経営者・役員）	
中間管理職 （部長・課長）	適切な管理指標を設定し、サービスレベルの設定、委託先・外注先の業務指導が出来る
中堅 （係長・主任）	コスト構造を理解し、物流・ロジスティクスの適切な業務管理が出来る 物流の各機能、物流機器、情報システムの知識を有し、適切な運営管理が出来る
新任・新人	物流・ロジスティクスの関連法規、基礎知識を有し、自社物流の基本的な運用が出来る

階層区分 ＼ 主要領域	サプライチェーン	ロジスティクス	物流
経営幹部 （経営者・役員）			
中間管理職 （部長・課長）	物流技術管理士 ストラテジック SCMコース	物流現場改善士資格認定講座	
中堅 （係長・主任）	物流技術管理士補資格認定コース		
新任・新人	ロジスティクス基礎講座		

モデルイメージ


実践
応用
財務諸表を分析し、自社の課題を発見することが出来る
リスクを想定した拠点の最適化、資産戦略、ネットワークの企画・立案が出来る
部門間の調整を行い、在庫の適正化、トータルコストの低減化が出来る
顧客ニースに対応した物流システム、共同物流の企画・立案が出来る
委託先、外注先の業務を理解し、適切な業務管理が出来る
物流ABC等の手法による業務改善、委託先との協働化を推進出来る
必要な分析手法を有し、コスト分析、適正在庫の算出が出来る
実効性のある改善企画を立案し、物流センターの管理、運営が出来る。
自社業務の運用における課題の抽出まで出来る


CSR (Corporate Social Responsibility)
グローバル
パートナーシップ
営業
組織・人材
ロジスティクス経営士資格認定講座
資格認定講座
ストラテジック SCMコース
国際物流管理士資格認定講座
※貴社の目指すべき人材育成を達成するためにJILSの各種講座やセミナー等をご活用ください
※各種セミナーにつきましては、25ページをご参照ください

荷主企業

物流・ロジスティクス・サプライチェーンマネジメントに関する「業務を遂行するために習得すべき主な知識・技術」の一例を示しております。
貴社にとって必要なテーマ、習得が望ましいと思われる知識・技術についてご確認いただき、人材育成・教育にお役立てください。

階層区分	役割	サプライチェーン	ロジスティクス	グローバル
経営幹部（経営者・役員）	● 経営計画の立案・承認 ● 需要に応じて、調達・生産・販売・物流や回収・廃棄等の活動を同期化させる仕組みを構築する（他部門との連携強化）。 ● 流通在庫の最少化を図る。 ● 戦略的パートナーの選定と連携 ● SCM やロジスティクス戦略の立案能力 ● SCM の評価 ● 新任の経営幹部に必要な知識や能力の修得	・資産戦略（在庫、アセット等） ・商品政策/商品化計画 ・経営指標［ROA *1・CCC *2等］管理 ・収支損益管理 ・S&OP（*3）	・ロジスティクスネットワーク設計/構築 ・荷主間連携 ・サービス戦略 ・拠点の最適化（統廃合/新設）	・グローバルサプライチェーン戦略 ・グローバルネットワーク設計/構築 ・グローバルパートナー選定 ・海外拠点運営戦略（組織体制構築）
中間管理職（部長・）課長）	● 経営の視点を常に意識して考える。 ● 顧客の注文に応えられるサービスレベルに適した物流システムの構築（拠点設置等）を行う。 ● 部門間の調整を行い、適正在庫の設定・維持管理を行う。 ● 売上高対物流コスト比率の最少化を図る。	・在庫管理（応用） ・在庫管理システム構築 ・供給計画（応用）（PSI *4） ・需要計画/予測 ・SWOT(*5)分析 ・外部環境分析（ミクロ、マクロ）	・共同物流構築 ・物流センター企画・設計 ・物流情報システム企画・設計 ・トータル物流コスト改善 ・ロジスティクス KPI 設計 ・サービスレベル設定 ・最適化手法（OR*7） ・物流コスト管理（応用）	・現地物流/ビジネス環境分析 ・現地委託先管理 ・関連法規 ・現法人材マネジメント ・グローバル 3PL
中堅（係長）	● 物流・ロジスティクスに関する専門知識や管理技術を有し、コスト適正化や効率化に向けた施策の立案及び推進をする。 ● 物流・ロジスティクスに関する定量的な指標を用いて物流業務を管理する。	・在庫管理（実践） ・供給計画(実践)（PSI *4） ・在庫管理システム ・TOC（*6）	・機能別物流コスト改善 ・物流ABC(*8) / ABM(*9) ・改善手法（応用） ・業務標準化 ・物流センター管理（保管・荷役コスト・品質） ・物流コスト管理（実践）	・輸出入業務改善 ・輸出入業務（応用） ・リスクマネジメント ・BCP（*10）
中堅（主任）	● 物流業務に関する管理手法を有し、適切な現場運営管理を行う。 ● 物流現場改善に関する分析手法、改善技法を有し、実効性のある現場改善策を企画する。 ● 問題点や改善効果を定量的に捉え、関係者の理解や協力を得ながら、改善を実行する。	・在庫管理（基礎） ・供給計画(基礎)（PSI *4） ・受発注システム	・改善手法（基礎） ・物流センターの運営/管理（人時生産性・スペース効率） ・物流コスト管理（基礎） ・サービスレベル分析 ・物流情報システム（概要）	・輸出入業務（実践） ・貿易貨物保険
新任・新人	● 物流、ロジスティクスに係る用語を適切に理解する。 ● 物流、ロジスティクスの基礎知識を有し、ロジスティクス全体の中で、担当業務の役割等を理解する。 ● 問題点や改善効果を定量的に捉えられる。	・サプライチェーン概論	・ロジスティクス・物流概論 ・物流センター基本機能 ・製品/商品特性 ・物流業界基礎知識 ・受発注業務	・輸出入業務（基礎） ・輸送システム（海上、航空等）

パートナーシップ	物流機能	CSR(*19)	組織・人材	用語
・戦略(社内・社外) ・戦略的 3PL ・荷主連携		・CSR(*19)経営 ・コンプライアンス経営 ・環境政策	・人材採用・育成計画 ・組織設計	1:Return On Asset 2:Cash Conversion Cycle 3:Sales and Operations Planning 4:Procurement/ Production Sales Inventory 5:Strength Weakness Opportunity Threat 6:Theory of Constraints 7:Operations Research 8:Activity Based Costing 9:Activity Based Management 10:Business Continuity Plan 11:Request For Proposal 12:Value Analysis 13:Value Engineering 14:Warehouse Management System 15:Transportation Management System 16:Industrial Engineering 17:Quality Control 18:Quality Cost Delivery Safety Morale 19:Corporate Social Responsibility
・委託先選定(RFP *11 作成) ・契約条件設定 ・委託先業務管理 ・委託先管理指標設定	・自動化企画・設計 ・モーダルシフト企画・設計 ・ユニットロードシステム企画・設計 ・包装設計(VA*12/VE*13)と包装技法 ・WMS(*14)企画、選定 ・TMS(*15)企画、選定 ・マテハン企画、選定	・BCP(*10)対策の立案 ・リスクマネジメント(実践/応用) ・コーポレートガバナンス ・内部監査 ・内部統制 ・コンプライアンス ・関連法規(収集/教育)	・組織・人材の能力開発 ・労働力不足対応 ・人材採用、育成計画立案 ・組織、人事マネジメント ・コーチング/チームビルディング	
・委託先との協働化推進 ・委託先業務指導	・改善手法(応用)(VA*12/VE*13) ・分析手法(応用) ・管理手法(実践・応用) ・標準時間設定	・法令順守管理手法 ・リスクマネジメント(基礎) ・環境負荷低減	・人材育成 ・労務管理	
・委託先管理(調整・探索など)	・改善手法(実践)(IE *16、QC *17) ・分析手法(実践) ・管理手法(基礎)(QCDSM*18)	・法令順守運用手順 ・各種保険 ・安全管理	・課題解決(実践/応用)	
・委託先対応 ・委託契約方式	・改善手法(基礎) ・分析手法(基礎) ・業務知識[荷役、輸配送、包装/梱包] ・5S ・マテハン	・関連法規(基礎) ・リスクマネジメント(概論) ・環境概論	・課題解決(基礎)	

物流企業

物流・ロジスティクス・サプライチェーンマネジメントに関する「業務を遂行するために習得すべき主な知識・技術」の一例を示しております。
貴社にとって必要なテーマ、習得が望ましいと思われる知識・技術についてご確認いただき、人材育成・教育にお役立てください。

階層区分	役割	3PL/ロジスティクス/サプライチェーン	パートナーシップ	グローバル
経営幹部（経営者・役員）	● 経営計画の立案・承認。 ● 顧客の注文に応えられるサービスレベルに適した物流システムの構築（拠点設置等）を行う。 ● 自社の企業価値を高める。 ● 次経営幹部の育成 ● 経営資源（ヒト・モノ・カネ）の強化	・経営指標［ROA *1・CCC *2 等］管理 ・ロジスティクスネットワーク設計/構築 ・SCM 改革 ・拠点の最適化（統廃合/新設） ・共同物流戦略 ・商品企画、開発	・内外作戦略 ・戦略的パートナーシップ ・荷主連携	・グローバルネットワーク設計/構築 ・海外拠点戦略（組織体制構築） ・カントリーリスク管理 ・現地法人設立
中間管理職（部長・課長）	● 経営の視点を常に意識して考える。 ● 課（ライン）の運営ビジョンの策定 ● 物流・ロジスティクスに関する専門知識や管理技術を有し、コスト低減や効率化に向けた施策の立案及び推進をする。 ● 物流・ロジスティクスに関する定量的な指標を用いて物流業務を管理する。	・先端 SCM 動向把握 ・事業/物流特性把握 ・物流センター立上げ ・共同物流推進 ・物流センター設計 ・物流情報システム要件設計 ・ロジスティクス KPI 設定 ・物流センター管理（保管・荷役コスト・品質） ・荷主在庫マネジメントの理解と改善 ・物流コスト管理（応用）	・委託先選定（RFP*4 作成） ・契約条件設定 ・委託先管理指標設定 ・委託元協業体制	・現地物流/ビジネス環境分析 ・現地委託先管理 ・関連法規 ・現法人材マネジメント
中堅（係長）	● 物流業務に関する管理手法を有し、適切な現場運営管理を行う。 ● リーダーの大切さ（なぜ、リーダーが必要なのか？）	・改善手法（実践/応用） ・物流コスト管理（実践） ・生産管理（実践/応用） ・TOC（*3）	・委託元管理（調整・連携など） ・委託先業務管理・指導	・現法収支管理 ・輸出入業務（応用）
中堅（主任）	● 物流現場改善に関する分析手法、改善技法を有し、実効性のある現場改善策を企画する。 ● 問題点や改善効果を定量的に捉え、関係者の理解や協力を得ながら、改善を実行する。	・改善手法（基礎） ・物流センターの運営、管理（人時生産性・スペース効率） ・物流コスト管理（基礎） ・在庫管理（実棚管理） ・物流情報システム（概要） ・生産管理（基礎）	・委託先業務連携/コミュニケーション ・契約交渉	・輸出入業務（実践） ・貿易貨物保険
新任・新人	● 物流、ロジスティクスに係る用語を適切に理解する。 ● 物流、ロジスティクスの基礎知識を有し、ロジスティクス全体の中で、担当業務の役割等を理解する。	・SC/ロジスティクス/物流概論 ・物流センター基礎知識 ・物流業界知識 ・物流コスト（基礎） ・自社商品特性理解	・顧客対応 ・委託先対応 ・委託契約方式	・グローバルロジスティクス（概論） ・輸出入業務（基礎） ・輸送システム（陸上、海上、航空）

物流機能	CSR(*12)	営業	組織・人材	用語
・資産戦略(拠点、車輌等) ・自社ネットワークの構築	・CSR(*12)経営 ・コーポレートガバナンス ・コンプライアンス経営 ・環境政策 ・BCP(*13)対策立案	・マーケティング戦略 ・異業種交流 ・提案営業の仕掛けづくり・展開	・人材採用・育成方針設計 ・組織設計 ・ダイバーシティ経営	1:Return On Asset 2:Cash Conversion Cycle 3:Theory of Constraints 4:Request For Proposal 5:Value Analysis 6:Value Engineering 7:Warehouse Management System 8:Transportation Management System 9:Industrial Engineering 10:Quality Control 11:Quality Cost Delivery Safety Morale 12:Corporate Social Responsibility 13:Business Continuity Plan
・自動化企画・設計 ・モーダルシフト企画・設計 ・ユニットロードシステム企画・設計 ・包装設計(VA*5/VE*6)と包装技法 ・WMS(*7)企画、選定 ・TMS(*8)企画、選定 ・マテハン企画、選定	・法令順守の管理方法 ・物流政策のキャッチアップ ・関連法規(収集/教育)	・事業特性分析(荷主企業の業界/組織特性等) ・営業先探索 ・売上目標管理 ・財務諸表/経営指標 ・営業計画の立案、実行 ・営業所マネジメント	・組織・人材の能力開発 ・労働力不足対応 ・人材育成・改善 ・組織、人事マネジメント ・コーチング/チームビルディング ・現場リーダー育成手法 ・コミュニケーション手法 ・メンタルヘルスマネジメント	
・改善手法(応用)(VA*5/VE*6) ・分析手法(応用) ・管理手法(実践・応用) ・標準時間設定 ・見積単価設定 ・荷役稼動管理	・環境指標(Co2 等)算出手法 ・非正規社員雇用関連法令 ・ISO 認証取得	・新規顧客開拓 ・提案営業(実践/応用)	・労務管理 ・チームリーダー育成 ・非正規社員雇用管理	
・改善手法(実践)(IE *9、QC *10) ・分析手法(実践) ・管理手法(基礎)(QCDSM*11) ・棚卸業務管理 ・配車管理 ・運行管理	・法令遵守運用手順 ・安全管理 ・関連法規(実践) ・各種保険 ・環境概論	・提案営業(基礎) ・物流営業(実践・応用) ・見積書作成	・チームビルディング ・課題解決(実践/応用)	
・改善手法(基礎) ・分析手法(基礎) ・業務知識[荷役、輸配送、包装/梱包] ・5S ・マテハン	・安全対策手順 ・リスクマネジメント(概論) ・関連法規(基礎)	・物流営業(基礎) ・契約方式	・課題解決(基礎)	

日本ロジスティクスシステム協会の資格制度

2017年10月現在の資格取得者数

階層別

専門知識を実務に応用して成果をあげる

資格名称

ロジスティクス経営士

348名　2002年度～

Certified Logistics Senior Master

◆経営の視点からロジスティクスを捉え、改革を推進することができるCLO（チーフ・ロジスティクス・オフィサー）

物流技術管理士

10,613名　1993年度～

Certified Logistics Master

◆物流・ロジスティクスの専門知識や管理技術を有し、物流品質向上、物流効率化、コストダウン等を実現できるロジスティクスのスペシャリスト

物流技術管理士補

2,271名　1997年度～

Certified Assistant Logistics Master

◆物流・ロジスティクスに関わる基礎知識を有し、実務への応用の仕方を習得している次世代のロジスティクス・スペシャリスト

テーマ別

国際物流管理士

1,498名　1978年度～

International Logistics Master

◆国際物流の専門知識を有し、グローバルレベルで全体最適を志向し、幅広い視点で新たな事業やサービスを企画し、実践することができる国際物流のスペシャリスト

物流現場改善士

445名　2010年度～

Certified Logistics Kaizen Master

◆物流現場の現状を把握し、課題を解決するために定量データをもとに改善実行計画を立案し、メンバーと協力しあいながら改善を推進することができる物流現場の改善リーダー

「ロジスティクス スペシャリスト」育成のための資格認定講座

ロジスティクス経営士資格認定講座

受講対象
- ロジスティクス関連の実務経験が5年程度ある、部長職クラスまたは部長職候補、ならびに幹部候補の方
- 物流技術管理士または国際物流管理士の資格取得後、実務を3年以上経験した幹部候補の方

開催日数 14日間

受講料 JILS会員　：432,000円（消費税込・１人あたり）
JILS会員外：540,000円（消費税込・１人あたり）

プログラムの特徴 講義（全8単元）／ケーススタディ（全3回）／グループミーティング（全3回）／小テスト
論文試験　／　面接試験

2018年度開講日程 第17期（東京）
2018年10月～2019年3月

物流技術管理士資格認定講座

受講対象
- 物流に関する基本的な用語を理解している方
もしくは
- 物流技術管理士補の有資格者

開催日数 18日間

受講料 JILS会員　：486,000円（消費税込・１人あたり）
JILS会員外：594,000円（消費税込・１人あたり）

プログラムの特徴 講義（全13単元）／受講レポート（前期・後期）／客観試験（前期・後期）／論文試験／面接試験

2018年度開講日程

第129期（東京）	2018年５月 ～ 2018年10月
第130期（大阪）	2018年６月 ～ 2018年12月
第131期（名古屋）	2018年９月 ～ 2019年３月
第132期（東京）	2018年９月 ～ 2019年３月
第133期（大阪）	2018年10月 ～ 2019年３月

物流技術管理士補資格認定コース
（旧　物流技術管理士補スクーリング）

NEW

受講対象
- 産業能率大学が実施する所定の通信教育修了者
- 東京海洋大学大学院「食品流通安全管理学」講義における所定単位取得者
- 流通経済大学流通情報学部ならびに大学院物流情報学研究科における所定単位取得者
- 中央職業能力開発協会が実施するビジネスキャリア検定「ロジスティクス管理」または「ロジスティクス・オペレーション」の2級もしくは3級の合格者かつ、企業等での実務経験を有する方。
- ロジスティクス基礎講座の修了者

開催日数 2日間

受講料 74,520円（消費税込・１人あたり）

プログラムの特徴 講義／グループ演習／事前課題レポート

2018年度開講日程

大阪	2018年７月（2日間）
東京	2018年８月（2日間）
名古屋	2018年10月（2日間）
東京	2019年２月（2日間）

ロジスティクス基礎講座

受講対象
- ロジスティクス関連部門の新入社員・新任担当の方
- 上記部門以外でロジスティクスの基礎知識を身につけたい方

開催日数 4日間

受講料 JILS会員　：　86,400円（消費税込・１人あたり）
JILS会員外：102,600円（消費税込・１人あたり）

プログラムの特徴 講義／事前課題レポート

2018年度開講日程

第67期（大阪）	2018年４月～５月
第68期（東京）	2018年５月～６月
第69期（名古屋）	2018年６月～７月
第70期（東京）	2018年10月～11月
第71期（福岡）	2018年11月

国際物流管理士資格認定講座

受講対象
- 国際物流関連業務に従事し2年程度の経験を有する方
- 国際物流のスペシャリストを志向する方
- 国際物流に携わる中堅管理者、担当者

開催日数 19日間

受講料 JILS会員　：432,000円（消費税込・１人あたり）
JILS会員外：540,000円（消費税込・１人あたり）

プログラムの特徴 講義（全9単元）／国際物流施設見学／ケーススタディ／レポート試験（全5回）／客観試験

2018年度開講日程 第40期（東京）
2018年9月～2019年3月

物流現場改善士資格認定講座

受講対象
- 製造業・流通業、物流業（運送事業者・倉庫業者等）の物流現場改善のリーダーとリーダー候補で物流に関する基本的な用語を理解している方

開催日数 10日間

受講料 JILS会員　：291,600円（消費税込・１人あたり）
JILS会員外：399,600円（消費税込・１人あたり）

プログラムの特徴 講義（全5単元）／
ケーススタディ・グループディスカッション／
レポート試験（全４回）／
レポート指導／
担当職場の「改善実行計画」の作成

2018年度開講日程 第9期（東京）
2018年６月～2019年１月

● 詳しくはホームページをご覧ください ➡http://www.logistics.or.jp/education/course.html

1 ロジスティクス経営士資格認定講座

開催地 東京

ロジスティクスを経営の視点からデザイン
～エグゼクティブのための専門講座～

概　　要	● 実務経験豊富な委員・講師による講義や指導、実践的なケーススタディへの取り組みを通じて、製造業・流通業の物流・ロジスティクス関連部門の責任者や、物流企業の経営幹部に求められる、戦略的思考力、財務分析力、戦略立案力、課題解決力の強化を図ります。
資格取得	● 本講座を修了し、所定の試験に合格した方に、「ロジスティクス経営士」の資格が授与されます。
受講資格	● ロジスティクス関連の実務経験が5年程度ある、部長職クラスまたは部長職候補もしくは幹部候補の方。 ● 物流技術管理士または国際物流管理士の資格取得後、実務を3年以上経験した幹部候補の方。
期待される到達レベル	● 経営の視点を常に意識して、考えることができる。 ● 財務諸表を分析し、企業の課題を発見することができる。 ● 課題を把握し、優先順位をつけることができる。 ● 課題解決のための方策を立案することができる。 ● 課題解決案を他者に説明し、理解を得ることができる。 ● 自社の業界、自分の立場にとらわれず、自由で柔軟な発想ができる。
合格基準	● 資格の合否判定は能力開発委員会 ロジスティクス経営士専門委員会が行い、以下の基準をすべて満たした場合、合格と判定される。 ①講座の修了者であること。 ②論文試験と面接試験を受験し、その合計点（100点満点）が80点以上であること。 ＊配点内訳：論文試験40点／面接試験60点
講　　師	● 各専門分野の第一線の学識経験者、実務家、専門コンサルタント　など
会期・開催地・定員	6ヵ月間（14日程度） ● 第17期 2018年10月～2019年3月　東京（30名）
受講料（消費税込：1名につき）	①会員　432,000円 ②会員外　540,000円 ③有資格者優待（会員）　378,000円 ④有資格者優待（会員外）　486,000円

プログラム

【第1単元】 ロジスティクスと経営戦略
1. ロジスティクスと経営戦略
2. 経営戦略から見たSCM
3. 企業競争力としてのロジスティクス戦略
4. SCMとベンチマーキング
5. 経営戦略と情報技術（IT）
6. 先進企業のSCM実践事例

【第2単元】 ロジスティクスと経営管理
1. 財務分析と経営管理指標
2. ロジスティクスと在庫マネジメント
3. ロジスティクスと経営の評価
4. ロジスティクスと経営の評価（企業事例）
5. ABM（Activity Based Management）～活動基準原価計算とコストコントロール～
6. 財務諸表による競合比較

【第3単元】 ロジスティクスにおける企業間コラボレーション
- コーディネータ、発表者による講演
- 受講者参加によるディスカッション

【第4単元】 コーポレート・ガバナンスとリスクマネジメント
1. 企業経営とリスクマネジメント
2. コーポレート・ガバナンスとリスクマネジメントの実践

【第5単元】 組織・人事マネジメント
1. 組織の設計と基本デザイン
2. 企業事例

【第6単元】 ロジスティクスと環境
1. 企業経営と環境問題対応

【第7単元】 グローバリゼーション
1. ロジスティクスとグローバリゼーション
2. 企業事例

【第8単元】 ロジスティクスの戦略立案（ケーススタディ）

ケーススタディ

架空企業を題材としたケーススタディ（2つの例題／論文執筆のためのケースブック）に取り組み、ロジスティクスの戦略立案について実践的に学びます。

グループ・ミーティング（全3回）

グループメンバー相互の発表やディスカッション、委員からの指導を通じて自社のロジスティクスの課題を整理し、解決案について検討します。

2 物流技術管理士資格認定講座

開催地 東京／大阪／名古屋

2018年度で開講25周年
物流管理者および物流技術者として必要な､物流･ロジスティクスの全領域にわたる専門知識およびマネジメント技術を総合的かつ体系的に学ぶ専門講座

概　要	● 物流技術管理士資格認定講座は、物流管理者および物流技術者として必要な、物流・ロジスティクスの全領域にわたる専門知識およびマネジメント技術を総合的かつ体系的に学ぶ講座です。 ● 製造業・流通業、物流事業者、物流子会社の方を中心として、例年、約400名の方にご受講いただいております。
資格取得	● 本講座を修了し、所定の試験に合格した方に、「物流技術管理士」の資格が授与されます。
資格認定規程（抜粋）	● 会期中（18日間）、14日以上出席すること。 ● 前・後期2回分の受講レポートを提出していること。 ● 客観試験（前・後期に筆記試験を2回実施）、論文試験、面接試験の全てを受験し、それぞれの試験の得点が満点の6割以上であり、かつ、すべての試験の合計点から欠席点と受講レポート遅延の減点を引いた総合点が60点以上であること。 ※資格認定規程については、開講式で詳細を説明いたします。ご不明な点は事務局にお問い合わせください。
受講資格	● 物流に関する基本的な用語を理解している方。もしくは ● 物流技術管理士補の有資格者。
講　師	● 各専門分野を代表する学識経験者、実務家、専門コンサルタント　など
会期・開催地・定員	6～7ヵ月間（18日） ● 第129期　2018年 5月～2018年10月　東京（120名） ● 第130期　2018年 6月～2018年12月　大阪（ 80名） ● 第131期　2018年 9月～2019年 3月　名古屋（ 50名） ● 第132期　2018年 9月～2019年 3月　東京（120名） ● 第133期　2018年10月～2019年 3月　大阪（ 80名）
受講料（消費税込：1名につき）	①会員　486,000円 ②会員外　594,000円 ③有資格者優待（会員）　432,000円 ④有資格者優待（会員外）　540,000円

プログラム

【プレミーティング】（2日）
問題の発見と解決（グループ演習）

【第1単元】 経営とロジスティクス（1日）
1. 企業価値を高めるロジスティクスの役割
2. ロジスティクスにおける顧客サービス
3. ロジスティクス戦略
4. ロジスティクスIT概論

【第2単元】 物流コスト管理（1日）
1. 物流コスト管理概論
2. 物流ABCの活用

【第3単元】 物流拠点管理（2日）
1. 保管・荷役とマテハン機器
2. 物流拠点におけるIT活用
3. 生産性と品質管理
4. 物流拠点管理概論（グループ演習）

【第4単元】 輸配送管理（2日）
1. 輸配送管理概論
2. 輸配送におけるIT活用
3. 輸配送システムの構築（個人演習）

【第5単元】 包装技術（0.5日）
1. 包装技術概論

【第6単元】 物流現場改善（1.5日）
1. 科学的管理技法概論
2. 物流現場の改善技法（個人演習）

【第7単元】 総合演習Ⅰ（2日）
物流改善演習（グループ演習）

【第8単元】 在庫管理とSCM（1日）
1. 在庫管理とSCM概論
2. 在庫管理の実務
3. SCMの実務

【第9単元】 グローバルロジスティクス（0.5日）
1. グローバルロジスティクス概論

【第10単元】 グリーンロジスティクス（0.5日）
1. グリーンロジスティクス概論

【第11単元】 物流アウトソーシングと3PL（1日）
1. 物流アウトソーシング、3PL
2. 3PLと契約

【第12単元】 ロジスティクスの社会的役割（1日）
1. CSR
2. 標準化
3. 行政の動向

【第13単元】 総合演習Ⅱ（2日）
物流改革演習（グループ演習）

3 物流技術管理士補資格認定コース
（旧　物流技術管理士補スクーリング）

開催地　東京／大阪／名古屋

概　　要	● ロジスティクス構築による経営革新に向けた計画の立案に取り組んでいただくグループ演習をカリキュラムの中心に据えています。 ● 通信教育や講座、講義で学ばれた知識を計画立案時にどのように活用すればよいか、企業事例をベースとしたグループ演習を通じて実践的に経験していただくことを目的としています。
資格取得	● 事前に課題レポートをご提出いただいた後、本講座に2日間出席し、修了した方に「物流技術管理士補」の資格が授与されます。
受講資格	● ロジスティクス基礎講座の修了者。 ● 産業能率大学が実施する所定の通信教育修了者。 ● 東京海洋大学大学院「食品流通安全管理学」講義における所定単位取得者。 ● 流通経済大学流通情報学部および大学院物流情報学研究科における所定単位取得者 ● 中央職業能力開発協会が実施するビジネスキャリア検定「ロジスティクス管理」または「ロジスティクス・オペレーション」の2級もしくは3級の合格者かつ、企業等での実務経験を有する方。

会期・開催地・定員	2018年 7月（2日間）	大阪（40名）
	2018年 8月（2日間）	東京（60名）
	2018年10月（2日間）	名古屋（20名）
	2019年 2月（2日間）	東京（60名）
参加料（消費税込：1名につき）	74,520円	

プログラム

【第1日目】
1. ロジスティクス戦略の最新動向
2. ロジスティクスシステム構築による経営革新 【演習】
   ・演習問題の説明　・グループディスカッション

【第2日目】
3. ロジスティクスシステム構築による経営革新 【演習】（前日の続き）
   ・グループディスカッション　・講評／解説
   ・グループディスカッション結果発表
4. 資格認定証授与

4 ロジスティクス基礎講座

開催地　東京／大阪／名古屋／福岡

概　　要	● 物流・ロジスティクスに関わる基礎知識や技法を体系的に学習するための講座です。 ● ロジスティクスの基本から物流現場のオペレーションまで、わかりやすく解説し、実務に直結するカリキュラムになっています。 ● 受講者の方々に講義内容の理解を深めていただくために、事前課題レポート（前半1回、後半1回）をご提出いただきます。 ● 本講座を修了された方には「修了証」を授与いたします。
修了規定	● 講座を全日（4日間）出席し、事前課題レポート2回を提出すること。
資格取得	● 本講座を修了後、当協会が主催する「物流技術管理士補資格認定コース」（2日間）を受講され、修了された方には、「物流技術管理士補」の資格を授与いたします。
対　　象	● ロジスティクス関連部門の新入社員・新任担当の方。 ● 上記部門以外でロジスティクスの基礎知識を身につけたい方。
講　　師	● 各専門分野を代表する学識経験者、実務家、専門コンサルタント　など
会期・開催地・定員	（4日） ● 第67期 2018年 4月～2018年 5月　大阪（50名） ● 第68期 2018年 5月～2018年 6月　東京（90名） ● 第69期 2018年 6月～2018年 7月　名古屋（40名） ● 第70期 2018年10月～2018年11月　東京（80名） ● 第71期 2018年11月　福岡（40名）
受講料（消費税込：1名につき）	①会員　86,400円 ②会員外　102,600円

プログラム

【第1日目】
Ⅰ．ロジスティクス概論（1）
【ロジスティクスの概念（物流との違い）、機能、構造、経営とロジスティクス 等】
ロジスティクス概論（2）
【顧客満足と顧客サービス、在庫マネジメント、アウトソーシングと3PL 等】
Ⅱ．ロジスティクス・オペレーションの基本機能
①包装【包装の概要、機能、目的、管理のポイント、材料・形状、包装における環境対策 等】

【第2日目】
②輸配送（1）
【輸送モードの特徴（トラック、鉄道、海運、航空）、輸送システム構築のポイント 等】
③輸配送（2）
【モーダルシフト、ユニットロードシステム、輸配送における環境対応 等】
④保管
【保管の概要、倉庫管理のポイント（レイアウト、流通加工など）、保管コスト 等】

【第3日目】
⑤荷役
【荷役の目的、荷役作業（仕分け、ピッキングなど）、マテハン機器の種類と特徴 等】
⑥情報システム（1）≪情報システムの概要≫
【IT・情報システムの基礎（自動認識技術、EDI、インターネット、パッケージ）等】
⑦情報システム（2）≪業務活用ソフトウェア≫
【各物流情報システムの概要と特徴（受発注、在庫管理、倉庫管理、輸配送管理）等】

【第4日目】
Ⅲ．在庫管理
【目的、機能、手法、受発注・生産と在庫】
Ⅳ．ロジスティクスコスト
【ロジスティクスコストとは、コスト管理、Activity Based Costing、サービスレベルとコスト】
Ⅴ．ロジスティクスの課題と展望
【社会システム、グローバルネットワーク、環境対応】

5 国際物流管理士資格認定講座

開催地 東京

カリキュラムや資格認定規程を改定！
最新の情報と企業事例を学び、国際物流のスペシャリストを目指す専門講座

概　　要	● 国際物流管理士資格認定講座は、国際物流スペシャリストとして必要な専門知識を総合的、体系的に学ぶ講座です。
資格取得	● 本講座を修了し、所定の試験に合格した方に、「国際物流管理士」の資格が授与されます。
資格認定規程（抜粋）	● 出席に関する規程 講座期間中、14日以上出席すること。 ● 試験に関する規程 客観試験およびレポート試験（5回）をすべて受験し、それぞれの得点が70点以上（100点満点）であること。 レポート試験と客観試験の平均点（100点満点）から、欠席点を引いた得点が70点以上であること。 なお、欠席点は1日につき1点、半日につき0.5点とする。 ※資格認定規程の詳細は、講座の開講時に、事務局よりご説明いたします。
受講資格	● 国際物流関連業務に従事し2年程度の経験を有する方。
対　　象	● 国際物流のスペシャリストを志向する方。 ● 国際物流に携わる中堅管理者、担当者。
講　　師	● 各専門分野を代表する学識経験者、実務家、専門コンサルタント　など
会期・開催地・定員	6ヵ月間（19日） ● 第40期 2018年9月～2019年3月　　東京（35名）
受講料（消費税込：1名につき）	①会員　432,000円 ②会員外　540,000円 ③有資格者優待（会員）　378,000円 ④有資格者優待（会員外）　486,000円

プログラム

【第1単元】グローバルロジスティクスのアウトラインを捉える（1.5日）
1. 国際物流とロジスティクス
2. グループ討議
3. 昨年度総代による講演

◆キックオフミーティング（交流会）

【第2単元】輸出入業務の流れと貿易実務に必要な知識を学ぶ（2.5日）
1. 国際マーケティングとインコタームズ、ウィーン売買条約
2. 輸出入における通関業務と保税手続き、通関システム
3. FTAとEPA、原産地規則、AEO制度
4. 貿易売買契約と各種決済方法、外国為替とリスクヘッジ、国際ファイナンス

【第3単元】国際物流の根幹を成す海上輸送を理解する（2日）
1. 海上貨物輸送概論
2. 海上個品運送契約/船荷証券/Sea Waybill/複合運送証券
3. 国際物流におけるコールドチェーンと特殊・冷凍コンテナ
4. NVOCCと国際複合輸送
5. 海上運送における危険物概論
6. 国際物流におけるコスト削減に向けた取り組み

【第4単元】航空輸送の仕組みとポイントを理解する（1日）
1. 航空産業概論
2. 航空貨物輸送概論、航空協定、航空運送約款と航空運送状、航空貨物運賃
3. フォワーダーとインテグレーターのグローバルロジスティクス展開

【第5単元】グローバルサプライチェーンの可視化と最適化の手法を学ぶ（3日）
1. グローバルサプライチェーンにおけるKPIの算定と既存業務プロセスの見直し
2. グローバルサプライチェーンの実務
3. 企業事例
4. グローバル3PL概論
5. グループ討議

【物流施設見学】国際物流の最前線を、見学して感じる（1日）

【第6単元】国際物流のリスクを理解し、対処する方策を学ぶ（2日）
1. リスクマネジメント概論
2. 国際物流におけるBCPの策定
3. 国際物流におけるリスクマネジメントとロスプリベンション
4. 国際物流におけるリスクマネジメント事情
5. 貿易貨物保険とクレームの実務

【第7単元】海外の最新物流環境を学ぶ（2日）
1. インドの最新物流事情
2. 欧州の最新物流事情
3. 米国の最新物流事情
4. 東南アジアの最新物流事情
5. 中国の最新物流事情

【第8単元】グローバル企業が直面した課題と解決方法を学ぶ（2日）
1. 海外におけるSCM・ロジスティクス改善事例
2. 海外駐在における駐在員の心得
3. ITによる国際物流の見える化
4. 海外現地における人材マネジメント方策
5. 海外現地における物流構築・改善の実際

【第9単元】あるべき姿に到達するための実践力を身につける（2日）
1. ケーススタディ「グローバルロジスティクス改革」

●レポート試験（5回・・・第2、3、4、5、6単元）

●客観試験

6 物流現場改善士資格認定講座

開催地 東京

物流現場改善をデータで議論、数値で管理し、改善を実践する物流現場改善リーダー育成のための専門講座

概　　要	● グループディスカッション、演習を多く取り入れ、理論・知識を実務で・活用するための実践力を身に付けます。 ● 実際の企業の物流現場をモデルにしたケーススタディに取り組みます。 ● 講座の成果として受講者の担当職場の改善実行計画が完成します。
資格取得	● 本講座を修了し、所定の試験に合格した方に、「物流現場改善士」の資格が授与されます。
受講対象	● 製造業・流通業、物流業（運送事業者・倉庫業者等）の物流現場改善のリーダーとリーダー候補で物流に関する基本的な用語を理解している方。
期待される到達レベル	● 物流業務における問題点を常に意識し、問題点を把握することができる。 ● 把握された問題点を、各種の分析手法を用い分析し、課題を抽出することができる。 ● 抽出された課題に優先順位をつけ、課題解決のための方策を立案することができる。 ● 課題解決案を社内外の関係者に説明し、理解を得、実行することができる。 ● 実行した課題解決の結果を評価できる。
合格基準	● 資格の合否判定は能力開発委員会 物流現場改善士専門委員会が行い、以下の基準を満たした場合、合格と判定される。 ● 講座の修了者であること。 ● 下記4つのレポート試験のすべてを受験し、改善実行計画レポート－2の点数（100点満点）が60点以上であること。 ①「問題発見レポート」 ②「改善企画レポート」 ③「改善実行計画レポート－1」 ④「改善実行計画レポート－2」
講　　師	● 各専門分野を代表する学識経験者、実務家、専門コンサルタント　など
会期・開催地・定員	（10日） ● 第9期 2018年6月～2019年1月　東京（68名）
受講料（消費税込：1名につき）	①会員　291,600円 ②会員外　399,600円

プログラム

【第1単元】　物流現場改善概論

1. 物流現場業務改善概論

【第2単元】　現状把握力の強化

1. 問題発見の基礎
2. 問題発見のヒント

【第3単元】　改善企画力の強化

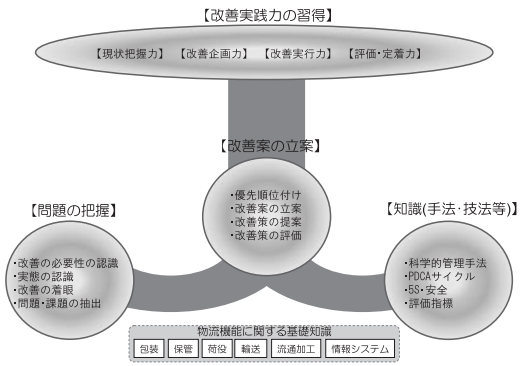
1. 振返り演習－1
2. 物流コスト分析
3. 科学的管理手法の習得＜QC・新QC＞
4. 科学的管理手法の習得＜IE＞

【第4単元】　改善実行力・評価･定着力の強化

1. 振返り演習－2
2. 改善実行の推進について
3. 物流現場改善の評価・定着・横展開
4. 物流評価指標・KPI
5. ケースの出題・説明

【第5単元】　物流現場改善立案：ケーススタディ

1. 振返り演習－3
2. レポート指導
3. ケーススタディのグループディスカッション
4. グループごとの提案書発表
5. 講評とまとめ



物流現場改善士資格取得者に授与されるバッジ

7 ストラテジックSCMコース

開催地 東京

いま問われるサプライチェーンの真価
戦略的な視点で学ぶ「最先端のSCM」

概　　要	● 戦略的な視点から、経営科学的なアプローチも含めた最新のSCMを学びます。 ● グループ演習で、日本のSCMの問題構造を、現状問題構造ツリー(CRT)により明らかにし、解決策を検討します。 ● 本コースは、2016年度より東京工業大学大学院イノベーションマネジメント研究科キャリアアップMOTより、コースを引き継ぎ、日本ロジスティクスシステム協会が運営しています。
修了規程	● 出席に関する要件（15日以上出席）を満たした者 ● 出席に関する要件（13.5日以上出席）を満たし、コーディネーターが受講評価を可と認めた者
対　　象	● 企業の経営企画を担当する経営幹部あるいはスタッフの方、サプライチェーンの計画・設計・管理・運営を担当する社会人の方
講　　師	● 各専門分野を代表する学識経験者、実務家、専門コンサルタント　など
会期・開催地・定員	(21日) ※20日：毎週金曜日19:00～21:00 1日：最終日。日曜日10:00～19:00 第17期 ● 2018年4月～2018年9月 東京(30名) 第18期 ● 2018年10月～2019年3月 東京(30名)
受講料 (消費税込：1名につき)	①会員　194,400円 ②会員外　194,400円

プログラム

【SCMの概念と経営戦略】

1. オリエンテーション／SCMの全体像と授業科目
2. 特別講義
3. SCM総論　SCMとリスク
4. 経営とSCM
5. CRT演習による課題研究とディスカッション

【サプライチェーンの実行プロセス】

6. プロセスモデル（SCOR）と業務プロセス改革
7. 調達から考えるサプライチェーン経営戦略
8. 生産スケジューリングとサプライチェーンBOM
9. サプライチェーン計画マネジメントとS&OP

【SCMにおける数理技術／ORの活用】

10. SCMスコアカードとSCMの課題／CRT演習
11. SCMにおける需要予測と在庫最適化
12. SCMにおけるORの活用：経営科学による意思決定
13. ORを使った最適化モデルと企業戦略への活用

【流通市場とSCM】

14. 消費財流通のチャネル戦略とSCM
15. SCMにおけるロジスティクスマネジメント
16. サービスイノベーションとSCM／DCM連携
17. SCMのリスク・マネジメント
18. マーケティングとSCM

【グローバル化時代におけるＳＣＭの課題】

19. サプライチェーン可視化とトレーサビリティー
20. グローバル／サプライチェーン戦略

【グループ課題発表会・修了式・特別講義】

※日曜日に開催

8 物流センター長のための組織対応力強化実践コース

開催地 東京

労働力不足に立ち向かう物流センター長の皆様へ、
講義と演習で体得し自ら実践する新しいコンセプトの専門コースの開設
＜マンパワーの最大化＞＜未経験者の即戦力化＞＜物量の波動に対応する瞬発力強化＞手法を習得する！

新規研修コースの開催にあたって	● 人が集まらない ● 採用してもすぐに辞めていく（続かない） ● 現場リーダーとスタッフの連携が取れていない ● リーダーの指示を聞いていない ● 業務内容をスタッフが覚えてくれない ● 業務の習熟が遅い ● ベテランスタッフが辞めると業務が回らない ● 改善活動が進まない ● 業務の実態を示す数値や指標の管理ができていない などの、、、 **お困りごとをお持ちの物流センター長・物流拠点管理者の皆様へ** **お困りの課題を解決すべく、この度JILSは人と組織の活性化マネジメントスキルを習得可能な新たな研修コースを開設いたします。**
概要	昨今の物流業界をとりまく環境の変化への対応として、年齢、性別、国籍にかかわらず**多様な人材が活躍できる職場環境の整備が求められています**。その多様な人材の活躍を実現するために、物流センター長や物流拠点管理者には、センターマネジメント能力、センター運営の実践力に加えて**特にヒューマンスキルが求められています**。本コースでは、講義や実践型の演習を通じてヒューマンスキルを体系的に学び、現場において実践できる人材（管理者・リーダー）を養成することを目的としています。そのために**実践的なケーススタディやロールプレイングなどの演習を通じてチームビルディング力や組織活性化力を強化**します。
受講対象	● 製造業、物流業、流通業などの物流センター長や物流拠点の管理者・リーダー
講師	● 各専門分野の第一線で活躍されているコンサルタント　など
会期 開催地 定員	● 4日間（前半：2日、後半：2日） 東京 25名
受講料 （消費税込：1名につき）	①会員　172,800円 ②会員外　216,000円 ③有資格者優待（会員）　151,200円 ④有資格者優待（会員外）　194,400円

プログラム

【1日目：物流センターのマネジメント総論】
＜センター長として、果たすべき役割・課題を明らかにする＞

1）昨今の物流拠点の持つ意義と動向
2）将来の物流拠点の課題と展望
3）自社の物流拠点の実力把握
4）拠点ネットワークの構築
5）顧客ニーズに応じたサービス向上
6）リスクマネジメントについて
7）IT（WEB対応型WMSやITソリューションの活用について）

【2日目：ヒューマンスキルアップ】
＜「人を動かす」センター長スキルを学ぶ＞

1）物流拠点管理者として望まれる管理者スキル
　・組織設計（力）
　・チームビルディング（力）
　・組織活性化力（エンパワーメント）
2）組織・人材の能力開発
　・中堅社員／チームリーダーのリーダーシップ能力の開発
　・コア人材のキャリア開発
　・改善活動推進能力の強化
　・コーチングとティーチングスキルの体得
3）職場活性化施策
4）ミニ演習（グループディスカッション・ロールプレイング）
5）演習（個人ワーク）

【3日目：重要指標管理とセンター運営戦略】
＜センターマネジメント手法を学ぶ＞

1）コスト構造（構成比）の理解と分析
2）目標利益の実現メカニズム
3）収支損益管理
4）評価基準の設定
5）KPI *1 の実践的な設定と活用方法
　※1 KPI：Key Performance Indicators（重要業績評価指標）
6）SLA（サービスレベルアグリーメント）*2
　※2 SLA：Service Level Agreement（サービス品質保証／サービスレベル合意書）
7）物流拠点（センター）の事業計画
8）ケーススタディ（グループ討議・演習）
　仮想企業のケースを分析し、課題を整理して解決策を導き出すプロセスを習得する

【4日目：明日から使える実践的マネジメント演習】
＜「明日からの結果につながる」手法を見出す＞

1）ケーススタディのまとめ
　・事前課題に基づき、グループメンバー内で各自の解決策などを発表します。
　・各グループ内の優秀事例を受講者全員が共有します。
2）事前課題に基づいたロールプレイング
　実際の現場を想定したロールプレイングを実体験し、グループメンバー間の相互評価や講師からの的確なアドバイスを得て現場での実践能力を高めます。

2018年度　開催予定セミナー　一覧

東京開催

※諸事情により、内容・日時等を変更する場合がございますので、ご了承ください。

NO.	セミナー名	2018年									2019年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
10	「物流提案営業の進め方」実践セミナー				●								
11	物流ABCによる荷役費・保管費・配送費の徹底削減基礎セミナー			●									
12	物流センター長のための物流拠点管理実践セミナー			●									
13	新任担当者のための国際物流基礎セミナー				●								
14	SCM基礎セミナー				●								
15	受注確度をあげるための提案営業演習セミナー					●							
16	たった一日でよく判る物流コスト基礎セミナー					●							
17	3PLプロバイダーの選定とパートナーシップ構築の鉄則						●						
18	在庫適正化実践セミナー												●
20	輸配送効率化実践セミナー							●					
21	「しってるをしてるに!! トヨタ式物流改善の極意」セミナー							●					
22	これでできる！ 収支日計								●				
23	荷主物流担当者のための物流アウトソーシング＆マネジメント「再」強化セミナー								●				
24	営業で勝つために効くセミナー	●											
25	WMS（倉庫管理システム）導入と活用セミナー										●		
26	物流コスト管理・削減実践セミナー											●	
28	「問題発見」実践セミナー											●	
29	物流現場リーダー育成セミナー											●	
30	物流センターの管理・レイアウト設計改善セミナー								●				

大阪開催 ※諸事情により、内容・日時等を変更する場合がございますので、ご了承ください。

NO.	セミナー名	2018年									2019年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
9	物流管理者のためのマネジメント基礎セミナー		●										
10	「物流提案営業の進め方」実践セミナー			●									
16	たった一日でよく判る物流コスト基礎セミナー					●							
18	在庫適正化実践セミナー						●						
19	物流現場改善の進め方						●						
20	輸配送効率化実践セミナー							●					
21	「しってるをしてるに!! トヨタ式物流改善の極意」セミナー							●					
23	荷主物流担当者のための物流アウトソーシング＆マネジメント「再」強化セミナー								●				
24	営業で勝つために効くセミナー											●	
27	よくわかる!! 情報システム基礎セミナー											●	
29	物流現場リーダー育成セミナー											●	
30	物流センターの管理・レイアウト設計改善セミナー											●	

名古屋開催 ※諸事情により、内容・日時等を変更する場合がございますので、ご了承ください。

NO.	セミナー名	2018年									2019年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
20	輸配送効率化実践セミナー											●	

セミナー MAP

レベル テーマ	基礎	実践・応用	講座・コース	研究会　手引書 書籍・教育 DVD
営業	㉔ 営業で勝つために効くセミナー ⑩「物流提案営業の進め方」実践セミナー	⑮ 受注確度をあげるための提案営業演習セミナー		
物流コスト	⑪ 物流ABCによる荷役費・保管費・配送費の徹底削減基礎セミナー ⑯ たった一日でよく判る物流コスト基礎セミナー ㉒ これでできる！ 収支日計 ㉖ 物流コスト管理・削減実践セミナー			（書籍） 「物流コスト調査報告書」
国際	⑬ 新任担当者のための国際物流基礎セミナー		国際物流管理士資格認定講座	（研究会） 「国際物流担当者として貿易業務で知っておきたいこと」
情報	㉗ よくわかる!! 情報システム基礎セミナー ㉕ WMS（在庫管理システム）導入と活用セミナー			
輸配送		⑳ 輸配送効率化実践セミナー		
アウトソーシング	⑰ 3PLプロバイダーの選定とパートナーシップ構築の鉄則	㉓ 荷主物流担当者のための物流アウトソーシング＆マネジメント「再」強化セミナー		
在庫		⑱ 在庫適正化実践セミナー		
SCM	⑭ SCM基礎セミナー		ストラテジックSCMコース	
改善	㉑「しってるをしてるに!! トヨタ式物流改善の極意」セミナー ㉘「問題発見」実践セミナー ⑲ 物流現場改善の進め方 ㉚物流センターの管理・レイアウト設計改善セミナー	㉙ 物流現場リーダー育成セミナー	物流現場改善士資格認定講座	（教育ＤＶＤ） 「正しい現品管理とは」 「正しい荷扱い作業とは」 （手引書） 「物流現場改善推進のための手引書」 「物流現場で働く中堅管理者（現場主任・リーダー）育成の手引き」
マネジメント	⑨ 物流管理者のためのマネジメント基礎セミナー	⑫ 物流センター長のための物流拠点管理実践セミナー	物流センター長のための組織対応力強化実践コース	

9 物流管理者のためのマネジメント基礎セミナー

マネジメント

概　　要	● 現場管理者にとって必要な計画策定から物流遂行までのマネジメントスキルについて、講義・演習を通じて学びます。
対　　象	● 物流現場を監督・管理する新任の部長・課長・センター長・マネジャー ● 上記以外で物流現場におけるマネジメントの基礎を身につけたい方
会　　期	● 2018年5月
開 催 地	● 大阪
定　　員	● 30名
参 加 料 （消費税込）	① 会　員（1名につき）　37,800円 ② 会員外（1名につき）　54,000円

プログラム

1. 企業経営とロジスティクス戦略
2. 物流サービスと顧客満足
3. 在庫管理
4. 3PLとアウトソーシング
5. 現場力の強化
6. 現場におけるCSRとコンプライアンス

10 「物流提案営業の進め方」実践セミナー

営業

概　　要	● 提案営業による新規顧客開拓の事例、提案営業に必要な手法、企画書の評価や内容の検証方法等について学びます。
対　　象	● 物流子会社、物流事業者の営業部門、企画部門の方
開 催 地 会　　期	① 大阪　2018年6月 ② 東京　2018年7月
定　　員	● 30名
参 加 料 （消費税込）	① 会　員（1名につき）　37,800円 ② 会員外（1名につき）　54,000円

プログラム

1. 物流提案営業の基本
2. 提案型営業の進め方 ～ステップ別解説～
   ステップ1：マーケティングフェーズ
   ステップ2：提案フェーズ
   （演習：ヒアリングシートの作成）
   ステップ3：実行フェーズ
3. 提案書作成とプレゼンテーション
   ①いい提案書の条件・提案書の種類
   ②実際の提案書による事例研究
   ③提案書作成とプレゼンテーションのポイント
4. まとめ

11 物流ABCによる荷役費・保管費・配送費の徹底削減基礎セミナー

物流コスト

概　　要	● 物流ABCの具体的な算定方法や分析・活用方法について講義と演習を通じて学びます。
対　　象	● 物流センターの管理者 ● 物流コスト管理担当者
会　　期	● 2018年6月
開 催 地	● 東京
定　　員	● 30名
参 加 料 （消費税込）	① 会　員（1名につき）　37,800円 ② 会員外（1名につき）　54,000円

プログラム

1. はじめに
2. 物流ABCの基礎
3. 事例研究：物流ABCの導入・活用の実際
4. まとめ

12 物流センター長のための物流拠点管理実践セミナー

マネジメント

概　　要	● 品質・生産性の管理や人員管理等物流センター長にとって必要な拠点管理に関する知識や技術、様々なノウハウを講義を通して学びます。	
対　　象	● 荷主企業、物流子会社、物流企業における物流拠点の管理者、監督者、グループリーダーおよび拠点管理部門の責任者、オペレーションマネージャーなど	
会　　期	● 2018年6月	
開 催 地	● 東京	
定　　員	● 30名	
参 加 料 （消費税込）	① 会　員（1名につき） ② 会員外（1名につき）	37,800円 54,000円

プログラム

1. はじめに
2. センター長の役割と強い物流現場の創り方
3. 物流サービス品質の定義と業界トップ水準への改善の進め方
4. 物流コストダウン、生産性向上の進め方と改善技法
5. まとめ（強い現場力はセンター長のリーダーシップから）

13 新任担当者のための国際物流基礎セミナー

国際

概　　要	● 初めて国際物流に携わる方々を対象に、国際物流の基礎を体系的に学びます。	
対　　象	● 国際物流、貿易関連部門の新入社員、新任担当者の方 ● 上記部門以外で国際物流の基礎知識を身につけたい方	
会　　期	● 2018年7月（2日間）	
開 催 地	● 東京	
定　　員	● 30名	
参 加 料 （消費税込）	① 会　員（1名につき） ② 会員外（1名につき）	64,800円 86,400円

プログラム

＜1日目＞
1. 国際物流入門
   1）国際物流の基礎知識
   2）国際物流の機能
2. 貿易実務の基礎
   1）貿易取引の概要
   2）取引交渉から契約の流れ
   3）インコタームズ２０１０

＜2日目＞
3. 貿易実務の各業務
   1）海上輸送
   2）航空輸送、複合一貫輸送
   3）貿易の枠組みと通関
   4）決済の仕組み
   5）船積み書類
   6）保険業務

14 SCM 基礎セミナー

概　　要	● SCMの基本的な考え方からSCM改革の進め方までを事例を交えた講義を通じて学びます。	
対　　象	● SCM、物流労務、生産管理に携わる方	
会　　期	● 2018年7月	
開 催 地	● 東京	
定　　員	● 30名	
参 加 料 （消費税込）	① 会　員（1名につき） ② 会員外（1名につき）	37,800円 54,000円

プログラム

1. SCMとは
2. グローバル化とSCM
3. 企業事例
4. S&OP
5. SCM改革の進め方

15 受注確度をあげるための提案営業演習セミナー

営業

概　　要	● 物流事業者が提案営業を成功させるためのポイントについて、講義・演習を通じて学びます。
対　　象	● 物流子会社、物流事業者の営業部門、企画部門の方
会　　期	● 2018年8月
開 催 地	● 東京
定　　員	● 30名
参 加 料 （消費税込）	① 会　員（1名につき）　37,800円 ② 会員外（1名につき）　54,000円
参加特典	●『すぐに使える提案書作成の基本フレーム』を進呈

プログラム

1. 真の顧客（荷主）ニーズとは
   ①聞いてきたのは、荷主の本当のニーズか？
   ②利益の出せる受注を取るポイント
   ③荷主の真のニーズはどこにあるのか？
2. 物流提案営業のアプローチ
   ①受注が取れる担当者、企業の要件
   ②役職別、タイプ別の攻略方法
   ③業務調査から提案までの手順と内容
3. グループ演習
   ①提案書の作成
   ②プレゼンテーション［物流事業者と荷主の立場で］
4. まとめ

16 たった一日でよく判る物流コスト基礎セミナー

物流コスト

概　　要	● 1日で物流コスト構造から、見える化、物流KPIの設定、適切な物流コスト削減の着眼点までを判りやすく解説します。
対　　象	● 製造業、流通業の物流部門および物流企業の管理者、スタッフの方々
開 催 地 会　　期	① 東京　2018年8月 ② 大阪　2018年8月
定　　員	● 30名
参 加 料 （消費税込）	① 会　員（1名につき）　37,800円 ② 会員外（1名につき）　54,000円

プログラム

1. 物流コストの基礎知識
2. 物流コスト管理の実際
3. 物流コスト算定（演習）
4. 物流コスト削減の着眼点
5. これからの物流コスト管理
6. まとめ、質疑応答

17 3PL プロバイダーの選定とパートナーシップ構築の鉄則

アウトソーシング

概　　要	● 物流の高度化、最適化を目指すためのパートナーの選定、業務委託の範囲、どのような体制を構築すべきか等、3PLプロジェクトを成功させるためのノウハウを学びます。
対　　象	● 製造業、流通業の物流・ロジスティクス部門の管理者の方 ● 物流子会社、事業者の3PL 関連部門の方
会　　期	● 2018年9月
開 催 地	● 東京
定　　員	● 30名
参 加 料 （消費税込）	① 会　員（1名につき）　37,800円 ② 会員外（1名につき）　54,000円

プログラム

1. 3PLとは
2. なぜ3PLなのか
3. 3PL化に必要なこと
4. 3PLプロバイダーの選定①
   （コンペの考え方、現状業務の棚卸）
5. 3PLプロバイダーの選定②
   （委託先候補の選定、RFI、RFP）
6. 新規業務委託のポイント
7. まとめ

18 在庫適正化実践セミナー

在庫

概　　要	● 製造業や流通業等の荷主企業における在庫のあり方やその適正化に向けたポイントについて、講義と演習を交えて学びます。
対　　象	● 製造業、流通業等の荷主企業におけるＳＣＭ、ロジスティクス、物流部門の係長、担当者の方 ● 物流子会社、物流事業者の方で、荷主企業の在庫管理に関心のある方
開催地 会　　期	① 大阪　2018年9月 ② 東京　2019年3月
定　　員	● 30名
参加料 （消費税込）	① 会　員（1名につき）　37,800円 ② 会員外（1名につき）　54,000円

プログラム

1. 企業における在庫
2. 在庫適正化へのアプローチ
3. グループ演習
   在庫・出荷実績データ等に基づく問題点の整理と改善・改革の方向性を検討するグループ演習を予定しています。
4. まとめ
5. 事例紹介

19 物流現場改善の進め方

改善

概　　要	● 物流現場における初歩的な管理項目や改善基礎知識、分析手法を学びます。
対　　象	● 新任の物流部門・物流センター管理の実務担当者の方
会　　期	● 2018年9月
開催地	● 大阪
定　　員	● 30名
参加料 （消費税込）	① 会　員（1名につき）　37,800円 ② 会員外（1名につき）　54,000円

プログラム

1. 物流現場管理の基礎
2. 問題・課題を正しく捉える
3. 問題点を明らかにする分析手法（演習）
4. 物流現場の改善手法
5. 物流品質の考え方
6. 物流業務改善の体系的な進め方

20 輸配送効率化実践セミナー

輸配送

概　　要	● 輸配送業務における生産性の向上とコスト削減を推進するための業務改善ステップや組織連携のアプローチなどについて事例を交えて解説します。
対　　象	● 製造業・流通業および物流管理会社、物流事業者の輸配送・配車管理者の方
開催地 会　　期	① 東　京　2018年10月 ② 大　阪　2018年10月 ③ 名古屋　2019年２月
定　　員	● 30名
参加料 （消費税込）	① 会　員（1名につき）　37,800円 ② 会員外（1名につき）　54,000円

プログラム

1. 輸配送の基本
2. 輸配送のムダを把握する
3. 輸配送コストを見える化する
4. 輸配送コストを下げる
5. 効率のよい輸配送を目指す
6. 輸配送のコストダウン成功事例

21 「しってるをしてるに!! トヨタ式物流改善の極意」セミナー

改善

概　　要	● トヨタ式物流改善の手法を実演などを通じ、解説します。
対　　象	● 製造業、流通業および物流管理会社、3PL、物流企業の管理者および改善推進リーダー担当の方々
開 催 地 会　　期	① 東京　2018年10月 ② 大阪　2018年10月
定　　員	● 30名
参 加 料 （消費税込）	① 会　員（1名につき）　37,800円 ② 会員外（1名につき）　54,000円

プログラム

1. 開講にあたって
2. 「カイゼン」とは
3. 物流とロジスティクス
4. TPS
5. 物流人材の育成
6. KPI（主要管理指標）
7. その他

22 これでできる！収支日計

物流コスト

概　　要	● 車両、ドライバー、または物流センターごとに日別の収支管理を行う「収支日計」の取り組み方法について解説します。
対　　象	● 物流事業者、物流子会社、3PL会社の配車管理者や物流管理部門の方
会　　期	● 2018年11月
開 催 地	● 東京
参 加 料 （消費税込）	① 会　員（1名につき）　37,800円 ② 会員外（1名につき）　54,000円

プログラム

1. 物流企業の経営状況
2. 「収支日計」の導入実態
3. 「収支日計」運用のポイント
4. 「収支日計」の本当の目的
5. 収益アップへのアプローチ具体策
6. 物流センターの収支日計
7. 「収支日計表作成の基礎設計」（演習）

23 荷主物流担当者のための物流アウトソーシング&マネジメント「再」強化セミナー

アウトソーシング

概　　要	● 物流アウトソーシングをマネジメントするための管理手法、見える化、物流ＫＰＩの設定方法などのノウハウをケーススタディを交えて学びます。
対　　象	● 製造業、流通業の物流部門および物流企業の管理者、スタッフの方々
開 催 地 会　　期	① 東京　2018年11月（2日間） ② 大阪　2018年11月（2日間）
定　　員	● 30名
参 加 料 （消費税込）	① 会　員（1名につき）　64,800円 ② 会員外（1名につき）　86,400円

プログラム

1. 物流のマネジメント上の課題とは
2. マネジメントを実現するための活動とは
3. 物流アウトソーシングのレベルアップのための活動とは

24 営業で勝つために効くセミナー

営業

概　　要	● 荷主企業の物流ニーズを的確に把握し、自社の物流サービスとその優位性を理解した上で荷主企業に効果的なアプローチを行うための方法を具体的な事例を交えながらわかりやすく解説いたします。
対　　象	● 物流子会社、物流事業者の営業部門、企画部門の方
開催地 会　　期	① 東京　2018年4月 ② 大阪　2019年2月
定　　員	● 30名
参加料 （消費税込）	① 会　員（1名につき）　37,800円 ② 会員外（1名につき）　54,000円
参加特典	● 『すぐに使える提案書作成の基本フレーム』を進呈

プログラム

1. 荷主の物流ニーズの現状
2. 物流業界におけるマーケティング手法
3. 営業で勝つために準備すべき事項
   - ●営業戦略編
   - ●ツール編
   - ●ネットワーク編
4. 勝つための提案営業の基本
   - ●営業先の見つけ方（ターゲットセグメント）
   - ●提案アプローチと事前準備
   - ●他社と違う提案書作成のポイント
   - ●プレゼンテーションの６箇条

25 WMS（倉庫管理システム）導入と活用セミナー

情報

概　　要	● WMS設計と導入、定着化までの一連のプロセスについて学びます。
対　　象	● 物流情報システム部門の管理者、担当者の方々 ● WMS及びWMSに関係する情報関連機器についての基礎知識を習得したい方々
会　　期	● 2019年1月
開催地	● 東京
定　　員	● 30名
参加料 （消費税込）	① 会　員（1名につき）　37,800円 ② 会員外（1名につき）　54,000円

プログラム

1. 物流・ロジスティクスとIT
2. 物流センターの情報システム
3. 物流センターの情報システムと自動化設備
4. 今後必要とされる物流センターの情報システム機能
5. WMS構築時のポイント

26 物流コスト管理・削減実践セミナー

物流コスト

概　　要	● 物流コスト管理システムの作成・分析、コスト削減の着眼点・方法等について、講義と演習を通じて学びます。
対　　象	● 製造業、流通業の物流部門及び物流事業者・物流子会社の管理者、コスト管理担当者
会　　期	● 2019年2月（2日間）
開催地	● 東京
定　　員	● 30名
参加料 （消費税込）	① 会　員（1名につき）　64,800円 ② 会員外（1名につき）　86,400円

プログラム

1. 物流コストの基礎知識
2. 物流コスト管理システムの作り方
3. 物流コスト予算実績差異分析の仕方
4. トラック運送の原価計算
5. 物流ABCを用いた物流センターのコスト管理
6. 物流コスト管理と削減の事例
7. 総合グループ演習「製造業の物流コストダウン戦略の策定」

27 よくわかる!! 情報システム基礎セミナー

情報

概　　要	● WMS・TMSなどロジスティクスに関わる情報システムの基礎から、実際にシステムを導入する際のポイントや提案要求書（RFP）発行とベンダ選定手法について解説いたします。
対　　象	● 物流情報システム部門の管理者、担当者の方々
会　　期	● 2019年2月（2日間）
開 催 地	● 大阪
定　　員	● 30名
参 加 料 （消費税込）	① 会　員（1名につき）　64,800円 ② 会員外（1名につき）　86,400円

プログラム

1．はじめに
2．情報システムの基礎知識とトレンド
3．ロジスティクスの情報システム概略
4．物流拠点におけるIT活用（WMS）
5．輸配送におけるIT活用（TMS）
6．物流QCDの見える化とKPI管理（LMS）
7．情報システム導入を成功させるコツ
8．提案要求書（RFP）発行とベンダ選定
9．まとめ

28 「問題発見」実践セミナー

改善

概　　要	● 物流現場改善の第一歩となる「気付き・問題点の把握」に焦点を当て、「問題発見の着眼点」「問題の抽出」について、事例と演習を交えながら解説します。
対　　象	● 製造業、物流企業（運送事業者・倉庫業者等）の物流現場改善のリーダーとリーダー候補
会　　期	● 2019年2月
開 催 地	● 東京
定　　員	● 30名
参 加 料 （消費税込）	① 会　員（1名につき）　37,800円 ② 会員外（1名につき）　54,000円

プログラム

1. 物流現場とはどんな場所？
2. ロジスティクスの理解と物流現場の関係
3. 物流現場の現状把握
4. 問題発見能力とは何か？
5. 問題発見の着眼点
6. 実例による改善演習

29 物流現場リーダー育成セミナー

改善

概　　要	● 物流センターにおけるコスト管理手法や、物流現場改善のスキルを学び、ケーススタディで改善実践力を鍛えます。
対　　象	● 製造業、流通業、物流業における物流センターの現場リーダー、リーダー候補の方々
開 催 地 会　　期	① 東京　2019年2月（2日間） ② 大阪　2019年2月（2日間）
定　　員	● 30名
参 加 料 （消費税込）	① 会　員（1名につき）　64,800円 ② 会員外（1名につき）　86,400円

プログラム

1. 物流現場リーダーに必要な資質
2. 物流コスト構造化
3. 物流現場改善の基礎①　問題の把握
4. 物流現場改善の基礎②　現状分析手法
5. ケースを通じた改善アイデア検討
6. 現場をコントロールするマネジメントの実践

30 物流センターの管理・レイアウト設計改善セミナー 改善

概　　要	● 作業効率、生産性、物流品質の高い物流センターの作り方、物流センター管理のツボ、業務改善のための実践的なノウハウを学びます。
対　　象	● 製造業、流通業、物流業のロジスティクス、物流部門の企画担当者、拠点設計、拠点業務の改善、運営担当者の方々
開催地 会　　期	① 東京　2018年11月 ② 大阪　2019年2月
定　　員	● 30名
参加料 （消費税込）	① 会　員（1名につき）　37,800円 ② 会員外（1名につき）　54,000円

プログラム

1. はじめに
2. 適正な物流センター数の算出方法と立地選定の方法
3. 物流センター規模の決定
4. 物流センターレイアウト設計
5. 物流センター業務管理のツボ

31 物流教育 DVD【正しい荷扱い作業とは】

- プロローグ
- 手扱い（ハンドリング）
- フォークリフト
- 正しい荷扱いを助ける表示（ケアマーク）
- 入庫・保管・出庫作業
- エピローグ

◆日本語版／英語版ナレーション付
◆収録時間　約25分
◆価格（送料別、消費税抜き）
1本　10,000円
＊別途、送料実費をご請求いたします。
（国内通常配送、1本の場合：360円）

32 物流教育 DVD【正しい現品管理とは】

- プロローグ
- 現品管理が悪いと
- 現品管理のまずさの要因
- 現品（物）の扱いの改善
- ミスのない現品取り扱いのアイデア
- 事務処理の改善
- 例外処理のルール化
- 現品棚卸の正確性向上
- 教育訓練と評価
- エピローグ

◆日本語版／英語版ナレーション付
◆収録時間　約25分
◆価格（送料別、消費税抜き）
1本　10,000円
＊別途、送料実費をご請求いたします。
（国内通常配送、1本の場合：360円）

DVDはJILSホームページからお申し込みいただけます。

トップ ➡ 調査・統計 機関誌・出版物 ➡ 書籍・教育DVD

※当協会のホームページは、www.logistics.or.jp または「JILS」で検索してください。

● 英語ナレーションもついていますので、
海外現地法人での人材教育などにもご活用いただけます。

※リージョンフリーですので、DVDプレーヤの地域設定に関わらず利用できます。
※DVDをテレビに出力する場合には、NTSC方式（日・米等）のテレビをご利用ください。
なお、パソコンで出力する場合には信号方式による影響はありません。

【割引セット販売】
セットでお買い求めいただくと、割引価格になります（割引は同時にＦＡＸ又はＷＥＢでお申込みの場合のみに適用となります）。

31＋32セット （5,000円割引）	15,000円 （税・送料別）

※物流教育DVDの価格は消費税抜きでの記載をしております。
税込み価格はご注文時期により異なりますので、別途お問い合わせください。

33 社内教育

当協会では公開制の各種講座やセミナーを開催するとともに、各企業オリジナルのオーダーメイドの社内教育を実施しております。

＜社内教育のメリット＞
- 完全オーダーメイドの教育プログラム･教材をご提供いたしますので､貴社の教育ニーズ･レベルに合わせた内容となります。
- 日数、開催日、会場など、貴社のご都合に合わせた調整が可能です。
- 貴社に在籍する資格取得者を活用した、各種講座と連携した中・長期的な人材育成についても、ご相談ください。

＜社内教育の流れ＞

1.お問い合わせ・ご相談	貴社の人材育成に関する悩み事、人材育成ニーズ等について、お聞かせください。
2.教育プログラムの提示	貴社のニーズに応じた教育プログラムをご提示いたします。 ※貴社の関係者がご納得いただくまで、内容の調整をいたします。
3.テキストの作成	貴社向け教育プログラムに対応したテキストを作成いたします。
4.教育プログラムの実施	専門講師による、講義を実施いたします。
5.フォローアップの実施	実施プログラムの評価、次回への提案等をさせていただきます。

＜社内教育メニュー＞
以下に示すのは一例ですので、詳細は当協会 JILS総合研究所宛にお問い合わせください。

分　類	コ　ー　ス　名　（例）
階層別教育コース	経営幹部コース／管理・監督者レベルアップコース／物流管理実践力強化コース／新入社員基礎コース　等
テーマ別教育コース【基　礎】	ロジスティクスシステム／国際物流／物流コスト管理／営業力強化／物流現場改善／グリーン物流　等
テーマ別教育コース【実　践】	物流提案営業／輸配送システム効率化／倉庫管理／在庫管理／物流安全衛生／環境負荷低減施策　等

34 コンサルティング

- ロジスティクスに精通したコンサルタントとの協業により、ロジスティクスに関する戦略立案・効率化・コストダウン・情報化など、ロジスティクスにおける経営革新を支援いたします。

35 通信教育

（監修）公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会

- 詳細につきましては、各実施機関のホームページをご覧ください。

実施機関	コース名	対象者	期間
学校法人 産業能率大学	物流の仕事がわかる	初めて物流の仕事に携わる方、物流の基本を再確認・強化したい中堅クラスの担当の方、物流の知識を必要とする他業界・他部門の担当者の方	2ヵ月
	物流技術を極める	物流管理部門の担当者、物流業の中堅～管理・監督者、その他企業の管理、監督者	2ヵ月
	ロジスティクス・マネジメントを極める	物流業をはじめとする企業の管理・監督者、経営企画、システム構築などに携わる方	2ヵ月

ビジネス・キャリア検定試験・ロジスティクス分野（ロジ検定）

http://www.javada.or.jp/jigyou/gino/business/logi.html（「ビジキャリ」で検索）

【ビジネス・キャリア検定試験とは？】

- 中央職業能力開発協会（JAVADA）が、厚生労働省が定めた職業能力評価基準に準拠した「職務を遂行する上で必要となる専門知識の習得と実務能力の評価を行うこと」を目的として実施している試験です。「人事・人材開発・労務管理」、「経理・財務管理」、「営業・マーケティング」、「生産管理」、「企業法務・総務」、「ロジスティクス」、「経営情報システム」、「経営戦略」の８分野について、１級からBASIC級まで設定されています。※一部未実施の分野があります。
- 「ロジスティクスについては、「２・３級ロジスティクス管理」、「２・３級ロジスティクス・オペレーション」「ロジスティクスBASIC級」が実施されており、「公的資格試験」という特徴と、多くの社員に共通的な専門知識を習得させることができることから、多くの業種業態の経営者層から物流・ロジスティクスに注目が集まる中、受験者が毎年増加しています。また、2017年より「１級ロジスティクス」が開始されます。

【試験体系】

	ビジネス・キャリア検定試験（ロジスティクス分野）	JILS資格認定講座・コース	
		資格認定講座	講座・コース
役員・経営幹部・トップマネジメント		ロジスティクス経営士資格認定講座	
部門長・ディレクター	1級ロジスティクス		ストラテジックSCMコース
課長・マネージャー	２級ロジスティクス管理 ２級ロジスティクス・オペレーション	物流技術管理士資格認定講座 物流現場改善士資格認定講座 国際物流管理士資格認定講座	
係長・リーダー	３級ロジスティクス管理 ３級ロジスティクス・オペレーション	物流技術管理士補資格認定コース	ロジスティクス基礎講座
スタッフ			
学生等	ロジスティクスBASIC級		

ロジスティクス管理の試験範囲（概要）
「物流の概念と物流管理」
「在庫管理」
「物流システム管理」
「物流コスト管理」
「物流情報システム」

ロジスティクス・オペレーションの試験範囲（概要）
「包装・荷役・MH・保管」
「輸配送システム」
「国際輸送」
「物流センター計画」
「物流センターの管理と運営」

【試験概要】

日程　　：前期試験　2018年10月1日（日）予定（１、２、３級）
　　後期試験　2019年2月18日（日）予定（２、３級、BASIC級）
受験料（税込）：１級（10,000円）／２級（6,990円）／３級（5,660円）／BASIC級（3,000円）

【ビジネス・キャリア検定試験の活用法（例）】

1）自己啓発として、担当職務に必要な専門知識の向上とスキル・アップに活用
2）教育研修として、社内で使用される専門知識の共通化と知識レベルの底上げに活用
3）客観的な能力評価基準として、試験結果に基づく従業員の昇進・昇格要件に活用
4）標準テキストをJILSの資格認定講座の予習用テキストとして活用
- ロジ検定では出題範囲に基づく「標準テキスト」が発刊されています。各章ごとのねらい、各節ごとの学習のポイント、学習内容の全体像や要点がわかりやすく解説されています。JILSの資格認定講座の受講前の予習用のテキストとしてお薦めします。

5）SCMの実現に向けて
- 荷主企業の物流・ロジスティクス部門がSCM改革を推進するためには、自社内の他部門（経営企画、調達、生産、営業、マーケティング、販売等）の与件、制約条件を理解しながら組織全体を鳥瞰し、全体最適の視点で戦略的なSCMプランを描き、他部門に対して提案し、交渉し、連携できる体制を構築することが求められます。そのため、「経営戦略」「生産管理」「経営情報システム」「営業・マーケティング」等の「ロジスティクス」分野以外の専門知識を習得していることが成功のポイントになります。同時に、他部門が「ロジスティクス」に関する基礎的な専門知識を習得していることも必要です。それぞれの分野の基礎的な専門知識の習得を目指す際に検定試験をご活用ください。

【専門知識を習得したら、応用力を身につけよう！】

- 中央職業能力開発協会が実施するビジネスキャリア検定「ロジスティクス管理」または「ロジスティクス・オペレーション」の2級もしくは3級の合格者かつ、企業等での実務経験を有する方が、実務での応用力を身につけるために、ＪＩＬＳの物流技術管理士補資格認定コース（旧 物流技術管理士補スクーリング）を受講できるようになりました。詳しくは、「③物流技術管理士補資格認定コース」をご覧ください。

人材育成のための支援ツール（手引書・診断ツール）

当協会のホームページより各種支援ツールをご活用ください。

36		**物流現場改善推進のための手引書［改訂版］** ※タイ荷主協会が翻訳した「タイ語版」も当協会ホームページに掲載しております。 http://www.logistics.or.jp/education/support.html
37		**物流現場で働く中堅管理者（現場主任・リーダー）育成の手引き** http://www.logistics.or.jp/education/support.html
38		**グリーンロジスティクスガイド** http://www.logistics.or.jp/green/report/08greenguide_00.html
39		**グリーン物流ってなんだろう？** http://www.logistics.or.jp/green/info/info.html
40		**キャリアアップ診断・チェックリスト** ・物流現場改善リーダーキャリアアップ診断　・問題発見チェックリスト ・現場活性サイクルチェックリスト　・グリーンロジスティクスチェックリスト http://www.logistics.or.jp/education/checklist.html
41		**物流現場改善事例集** http://www.logistics.or.jp/jils-net/logidoc/logidoc_search.php

先進事例から学ぶ

＊42～45は、有資格者優待の対象です。

42 ロジスティクス全国大会　2018

開催地 東京

開催時期	● 2018年10月（2日間）
開催場所	● 東京
参加料（消費税込）	● ①36,720円（会員）　1名あたり ②60,480円（会員外）　1名あたり ③29,700円（有資格者優待）1名あたり

経営マネジメントの視点から、グローバル、環境、コンプライアンス、人材育成など必須テーマのもとにロジスティクス高度化に向けた先進事例が発表されます。毎年全国からロジスティクス関係者が一堂に集い、活発な交流が行われます。

43 ロジスティクス関西大会　2019

開催地 大阪

開催時期	● 2019年2月（2日間）
開催場所	● 大阪
参加料（消費税込）	● ①33,480円（会員）　1名あたり ②56,160円（会員外）　1名あたり ③25,920円（有資格者優待）1名あたり

ロジスティクスを通じて、グローバル競争に対応する経営戦略を啓発し、最新の革新動向について情報発信するとともに、参加者相互の情報交流を通して、新世紀のロジスティクスのあり方を検討します。

44 中部ロジスティクス講演会　2018

開催地 名古屋

開催時期	● 2018年10月（半日）
開催場所	● 名古屋
参加料（消費税込）	● ①　8,640円（会員）　1名あたり ②12,960円（会員外）　1名あたり ③　5,400円（有資格者優待）1名あたり

中部地域のロジスティクス関係者が一堂に集い、講演や懇親会を通じて、ロジスティクスの視点からの経営戦略や最新の革新動向に関する活発な情報交流を行います。

45 九州ロジスティクス講演会　2018

開催地 福岡

開催時期	● 2018年10月（1日）
開催場所	● 福岡
参加料（消費税込）	● ①　8,640円（会員）　1名あたり ②17,280円（会員外）　1名あたり ③　5,400円（有資格者優待）1名あたり

九州・山口地域のSCM・ロジスティクス関係者が一堂に集い、ロジスティクスの視点から経営戦略や最新の動向に関する活発な情報交換を行います。

46 テーマ別研究会

開催地 東京／大阪／名古屋／福岡

開催時期	● 2018年5月～2019年3月
開催場所	● 東京、大阪、名古屋、福岡
参加料（消費税込）	● ①5,400円～16,200円（会員）　1回あたり ②10,800円～32,400円（会員外）1回あたり ＊会合によって異なりますので、詳細は各会合の案内にてご確認ください。

最新の行政動向、物流コスト調査等の研究成果や優れた企業事例等を紹介します。ロジスティクス・SCMの動向を把握し、課題解決のヒントを見い出します。

47 ロジスティクスシステム研究会（年間登録制）

開催地 東京

開催時期	● 2018年5月～2019年3月　（全10回）
開催場所	● 東京
参加料（消費税込）	● ①　97,200円（会員）　1名あたり ② 126,360円（会員外）1名あたり

SCM＆物流に関わる様々な切り口（テーマ）から、製造業、流通業、物流子会社、3PL／物流業、サービス業等の研究会メンバーが自身の取組（事例）をベースに、問題・課題を提示し、メンバー同士が「三現主義」に基づくディスカッションを通して、解決のヒントを見出す機会を提供します。

48 食品ロジスティクス研究会（年間登録制）

開催地 東京

開催時期	● 2018年5月～2019年3月　（全10回）
開催場所	● 東京
参加料（消費税込）	● ①100,000円（会員）　1名あたり ②130,000円（会員外）1名あたり

加工食品メーカーのロジスティクス責任者による情報交流を目的とし、メンバー相互の事例発表、物流センター見学などを行います。

49 物流子会社懇話会（年間登録制）

開催地 東京

開催時期	● 2018年4月～2019年3月　（全11回）
開催場所	● 東京
参加料（消費税込）	● ① 226,800円（会員）　1社(2名登録可) ② 367,200円（会員外）1社(2名登録可)

物流管理会社、物流子会社のトップマネジメントの方々が集い、自社、業界の経営全般に関する様々な問題や課題をとりあげ、その対策や解決方法についてメンバー相互の意見交換と積極的な情報交流、現地視察や外部講師の招聘等を行い、物流管理会社、物流子会社のあるべき方向を探っていきます。

50 関西ロジスティクス研究会（年間登録制）

開催地 大阪

開催時期	● 2018年5月～2019年3月　（全11回）
開催場所	● 大阪
参加料（消費税込）	● ①　81,000円（会員）　1名あたり ②105,840円（会員外）1名あたり

最新ロジスティクス事情の収集や潮流、最新情報等の収集、現場見学、他業界・他企業との交流を目的とし、活発な討議により情報の共有化を促進します。

51 九州ロジスティクス活性化研究会（年間登録制）

開催地 福岡

開催時期	● 2018年6月～2019年3月　（全9回）
開催場所	● 福岡
参加料（消費税込）	● ① 54,000円（会員）　1名あたり ② 70,200円（会員外）1名あたり

九州・山口地域の会員による、事例交流や専門家による最新情報の解説などを通して、人脈形成と相互啓発を促進し、参加メンバーの課題解決を支援します。

52 国際物流総合展 2018

国際物流総合展2018
開催概要

目　的　内外の最新物流機器・システム・情報等のソフトとハードを一堂に結集し、交易振興・技術の向上・情報の提供・人的交流等を促進することを目的とする。

会　場　東京ビッグサイト　東展示棟

会　期　2018年9月11日(火)～14日(金)

出展料（消費税込）
会　員　399,600円 ／1小間目
　　345,600円 ／2小間目以降
会員外　475,200円 ／1小間目
　　410,400円 ／2小間目以降
※1小間：間口2.97m×奥行2.97m×高さ2.7m

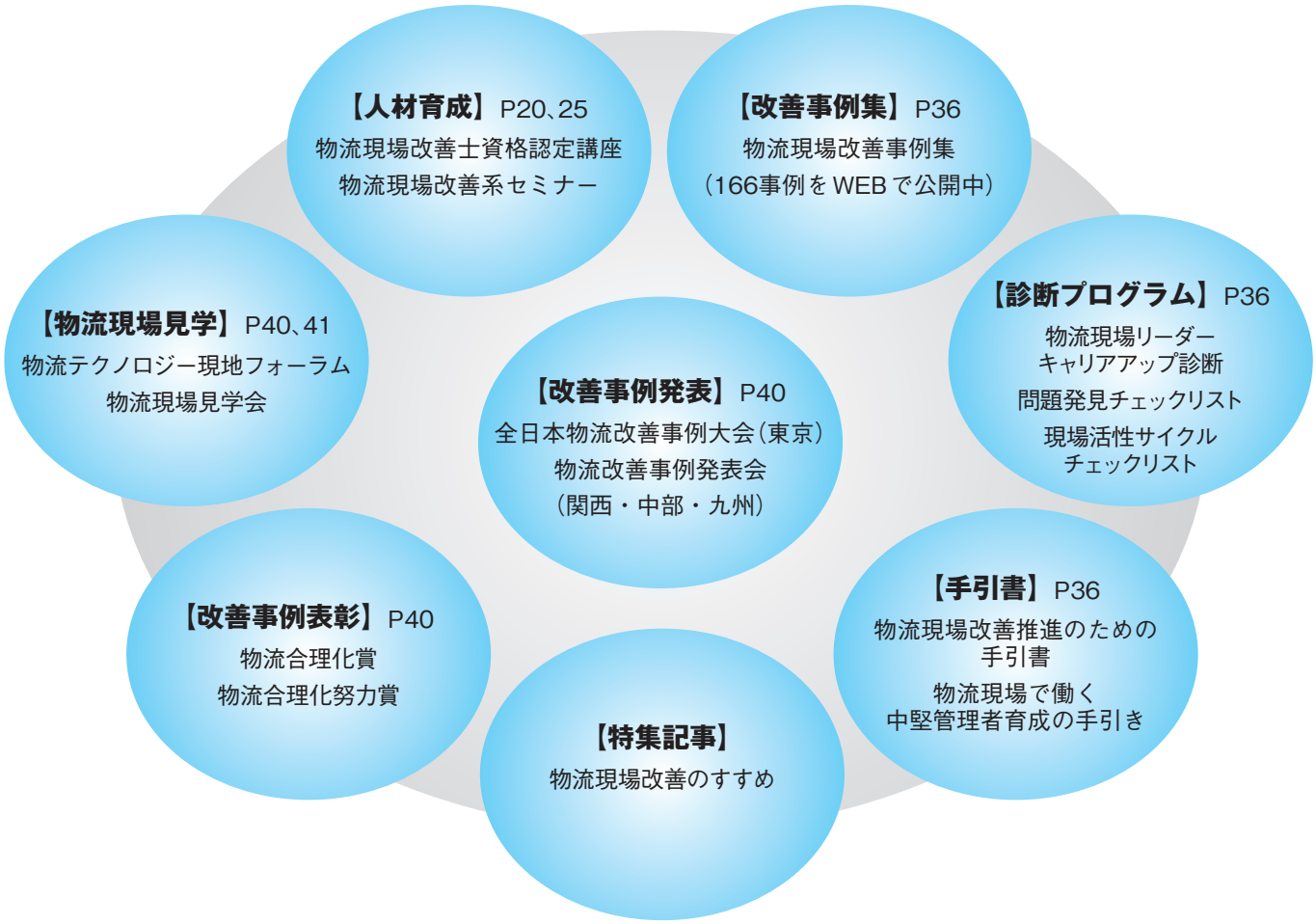
展示予定規模　500社／2,270小間

入場登録料（消費税込）　3,000円

来場予定者　67,000名
全産業の経営トップ、経営企画･戦略部門、ＳＣＭ部門、ロジスティクス部門、物流･流通管理部門、調達･購買部門、生産管理･生産技術部門、情報システム部門、企画･販売部門、マーケティング･調査、行政機関･団体･学校の関係者など

物流現場改善活動に取り組もう！

●日本ロジスティクスシステム協会は、各社の物流現場改善活動を活性化するための取り組みを展開しています。貴社の物流現場改善活動の活性化にお役立てください。
http://www.logistics.or.jp/subdivision/



物流現場改善のすすめ

改善のエキスパートが綴る
現場改善推進のメッセージ

全日本物流改善事例大会
関西・中部・九州
物流改善事例発表会

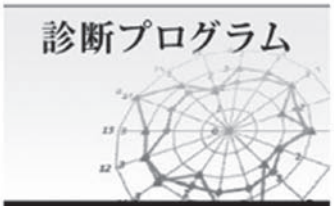
物流現場改善の成功事例
物流現場の問題解決のための事例

物流現場改善推進のための手引書
物流現場で働く中堅管理者育成の手引き

物流現場改善士資格認定講座
物流現場改善系セミナー

物流合理化賞
物流合理化努力賞

物流テクノロジー現地フォーラム
物流現場見学会



物流現場リーダーキャリアアップ診断
問題発見チェックリスト
現場活性サイクルチェックリスト

物流改善事例から学ぶ

＊53～56は、有資格者優待の対象です。

53 全日本物流改善事例大会　2018

開催地　東京

開催時期	● 2018年5月15日（火）・16日（水）
開催場所	● 東京
参加料（消費税込）	● ①36,720円（会員） ②60,480円（会員外） ③29,700円（有資格者優待）

物流の現場において合理化の成果をあげている優れた改善事例をご発表いただき、実務担当者が各々の現場の課題解決の手がかりやノウハウを共有し合うことで、視野を広げ、今後の物流改善活動の推進に役立つことをねらいとしています。

54 関西物流改善事例発表会　2018

開催地　大阪

開催時期	● 2018年10月（1日）
開催場所	● 大阪
参加料（消費税込）	● ①16,200円（会員） ②24,840円（会員外） ③10,800円（有資格者優待）

主に関西地域の物流現場における改善事例をご発表いただき、その手法やノウハウを共有することで、さらなる物流合理化活動の推進に役立つことをねらいとしています。

55 中部物流改善事例発表会　2018

開催地　名古屋

開催時期	● 2018年11月（1日）
開催場所	● 名古屋
参加料（消費税込）	● ①　8,640円（会員） ②12,960円（会員外）

主に中部地域の物流現場における改善事例をご発表いただき、その手法やノウハウを共有することで、さらなる物流合理化活動の推進に役立つことをねらいとしています。

56 九州物流改善事例発表会　2018

開催地　福岡

開催時期	● 2018年11月（1日）
開催場所	● 福岡
参加料（消費税込）	● ①　7,560円（会員） ②10,800円（会員外） ③　5,400円（有資格者優待）

主に九州・山口地域の物流現場における改善事例をご発表いただき、その手法やノウハウを共有することで、さらなる物流合理化活動の推進に役立つことをねらいとしています。

57 物流合理化賞

【2017年度 物流合理化賞】

・動作分析ノウハウを活用したムダ作業削減による生産性の改善
　アドバンスト・ロジスティックス・ソリューションズ株式会社

・強化カートンケース開発による廃棄物削減
　本田技研工業株式会社

全日本物流改善事例大会にて発表された改善事例の中から、特に優れた内容と成果が認められた改善事例に対して「物流合理化賞」、「物流合理化努力賞」を贈り表彰しています。

物流施設を見学して学ぶ

＊物流施設の見学を通して、最新の物流技術、物流現場の運営方法等を研究します。

58 物流テクノロジー現地フォーラム　2018

開催地　東京／大阪

東京開催	● 2018年5月～2019年3月
	● 期間中に9回
	● ①178,200円（会員）　（消費税込） ②210,600円（会員外）　（消費税込）
大阪開催	● 2018年7月～2019年3月
	● 期間中に7回
	● ①136,080円（会員）　（消費税込） ②174,960円（会員外）　（消費税込）

技術革新の著しい物流テクノロジー、効率的な運営を行っている物流現場に焦点をあて、現地研修ならびに施設見学を通して、最新の物流技術、物流現場の運営方法等を研究します。

59	**現場研究会** 開催地：東京／大阪／名古屋／福岡 先端設備・技術や巧みな運用で効率を上げている物流施設を見学するとともに、訪問先担当者との情報交流をはかります。	

開催時期	● 2018年5月～2019年3月
開催場所	● 東京、大阪、名古屋、福岡
参加料（消費税込）	● ①5,400円～16,200円（会員）　1回あたり ②10,800円～32,400円（会員外）1回あたり ＊会合によって異なりますので、詳細は各会合の案内にてご確認ください。

最新の調査結果より学ぶ

JILSは、多元化するロジスティクスの諸問題について、調査分析・研究開発を行うとともに、経営支援活動やデータベースの構築をとおして、的確な情報発信を行い、あわせて、時代をリードする提言の実施や問題解決のグランドデザインを提供すること等を目標にしています。

【主要調査】

60	物流コスト調査（http://www.logistics.or.jp/data/survey/cost.html） 物流コストのデータ、算定方法、コスト削減策実施状況
61	物流システム機器生産出荷統計（http://www.logistics.or.jp/data/survey/manufacture.html） 物流システム機器（マテハン機器）の出荷金額、出荷数量等の統計
62	ロジスティクス評価指標（KPI）調査（http://www.logistics.or.jp/data/survey/kpi.html） ロジスティクスの標準的な評価指標体系、ベンチマーク

【2016年度の主な実績】

●経済産業省補助事業「平成28年度次世代物流システム構築事業費補助金」により実施した調査及び補助事業

＜調査事業＞

1．「荷主連携による共同輸配送の環境整備等に関する調査研究」

※詳細：http://www.logistics.or.jp/jils_news/2017/04/2016-3.html

＜補助事業＞

1．需要予測の精度向上・共有化による省エネ物流プロジェクト

2．電子タグを活用したアパレル版IoTの実現によるサプライチェーンの高度化と環境負荷低減

3．内陸デポを活用したラウンドユース推進及び次世代物流モデルの創出

4．バース予約によるシェアリングプラットフォーム実施報告

5．IoT技術を活用した物流効率化・省エネシステムの開発と実証

※詳細：http://www.logistics.or.jp/jils_news/2017/06/2016-4.html

●株式会社野村総合研究所（発注元：国土交通省）より請け負ったトラック運送における生産性向上方策に関する手引きの策定調査

トラック運送事業の生産性向上に資する既存の事例を収集・整理し、学識経験者並びに荷主企業及び貨物運送事業者から成るワーキンググループの議論を経て、「トラック運送における生産性向上方策に関する手引き」として取りまとめた。

※詳細：http://www.logistics.or.jp/pdf/data/truck_seisanseitebiki_2016.pdf

ロジスティクスコンセプト2020

当協会では、創立20周年記念事業として実施した「2020年ロジスティクス総合調査」の成果の一部として「ロジスティクスコンセプト2020」を作成しました。

「ロジスティクスコンセプト2020」は、産業界、社会に対し、将来におけるロジスティクスのあるべき姿とそれを実現するための取り組み指針を示しております。

【これからのロジスティクスのあるべき姿】

ロジスティクスを物流管理の延長で語る時代は終わりました。戦後長く先進工業国であった日本は、今や大量生産・大量消費を前提としたこれまでの産業構造とそれを基盤とした社会構造から、大きく転換しつつあります。その中でロジスティクスのあり方も、物の移動だけではなく、産業や生活の場に届けられる価値に主眼を置いたものへと、変革を迫られています。

現代の社会・産業は、それが環境に与える負の側面が顕在化し、資源の有限性が現実味を増すに伴って、環境への調和と資源の有効活用に立脚した、持続可能な構造へと転換することが求められています。また、日本はそのような社会・産業構造の転換を先導する立場にあります。

一方で、日本を取り巻く状況に目を転じると、先進国の競争優位を支えてきた科学技術や教育・インフラ等の社会システムが普遍化して新興国の産業化が進展すると同時に、これまで日本の主力産業であった製造業を取り巻く環境が変化して来ています。それに伴い、国内雇用が縮小し、より競争的で流動的な労働環境へ移行する等の影響も顕在化しています。これに対して、インターネット等の分野で新たな産業が生まれたり、あるいは製造・流通・出版・金融等の既存の企業が、知識・コンテンツや情報通信に着目した新たなビジネスモデルへと転換したり、あるいは環境問題に対応するため、省エネルギーや代替エネルギー、リサイクル等を担う新たな産業が誕生するといった動きも出てきており、今や日本の産業構造が大きく変化しつつあります。

このような変化に対して引き続き日本の産業活動と国民生活を維持・発展させるため、これからのロジスティクスは、その基本に立ち戻って企業内の統合管理を徹底したうえで、全体最適の視野を拡げて、グローバル化するサプライチェーンの効率性と持続可能性を高め、安全・安心な生活に貢献するようなマネジメントへと発展しなければなりません。また、ロジスティクスは産業および社会における上記のような役割を果たすだけでなく、その領域をさらに拡大し、社会の持続可能なライフスタイルへの変革の一端を担うことも望まれます。

＊詳細の冊子版は当協会のホームページよりダウンロードが可能です。http://www.logistics.or.jp/propulsion/index.html

公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会 入会のご案内

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会はロジスティクスシステムの高度化と普及推進を使命とし、あらゆる業種からの909社（2017年10月現在）の会員により組織・運営されております。会員には様々な特典が用意されております。是非この機会にご入会いただき、貴社のロジスティクス高度化のためにご活用ください。

会員特典

1）テーマ別研究会・現場研究会への参加（実費）
2）機関誌『ロジスティクスシステム』の無料配布
（年間4号発行予定）
3）各種情報サービス
4）当協会主催展示会の入場券無料配布
5）事業利用上の特典
①セミナー、フォーラム、大会等の参加料割引
②資格認定講座の受講料割引
③当協会主催展示会の出展料の割引
④講師派遣、企業内教育の支援
⑤コンサルティング、診断の相談

・入会は随時受け付けております。当協会の趣旨にご賛同の法人であれば所定の手続きを経て、ご入会いただけます。
・入会金：1万円（初年度のみ）　・年会費：12万円（1口につき）　＊年度途中のご入会の場合は、月割計算いたします。

パンフレット送付依頼フォーム

この『人材育成支援ガイド2018』に記載されている資格認定講座、セミナー、各種催し等に関する、詳細パンフレットをご送付いたしますので、下記の送付依頼フォームに必要事項をご記入の上、E-mailまたはFAXにて、事務局までご請求ください。

各パンフレットとも、開催日の1ヵ月前までには、郵送させていただきます。

【お問い合わせ先】　公益社団法人　日本ロジスティクスシステム協会

本　　部	〒105-0022 東京都港区海岸1-15-1　スズエベイディアム3F ＴＥＬ 03-3436-3191　　ＦＡＸ 03-3436-3190 担当：業務管理部（shien@logistics.or.jp）
関西支部	〒530-0001 大阪市北区梅田2-2-22　ハービスENTオフィスタワー19F ＴＥＬ 06-4797-2070　　ＦＡＸ 06-4797-2071 担当：大西（kansai@logistics.or.jp）
中部支部	〒450-0003 名古屋市中村区名駅南4-12-17 ＴＥＬ 052-588-3011　　ＦＡＸ 052-588-3012 担当：大川（chubu@logistics.or.jp）

〈キリトリ〉

ご送付先

所　在　地	〒		
お会社名			
ご　所　属			
お　役　職			
ふりがな		電　　話	ＦＡＸ
お　名　前			
E-mail			

ご希望のパンフレット

NO	プログラム名 （資格認定講座名・セミナー名など）	受講希望場所 ※○印をご記入ください	備　考　欄
		（　　）東京 （　　）大阪 （　　）名古屋 （　　）福岡	
		（　　）東京 （　　）大阪 （　　）名古屋 （　　）福岡	
		（　　）東京 （　　）大阪 （　　）名古屋 （　　）福岡	
		（　　）東京 （　　）大阪 （　　）名古屋 （　　）福岡	

● このパンフレット送付依頼フォームは申込書ではございません。
お申し込みには各プログラムの詳細パンフレットをご利用くださいますようお願いいたします。

個人情報のお取扱いについて

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会では、個人情報の保護に努めております。詳細は、当協会のプライバシーポリシー（http://www.logistics.or.jp/privacy.html）をご覧ください。

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会（http://www.logistics.or.jp）

公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会

本　　部　〒105-0022 東京都港区海岸1-15-1　スズエベイディアム3F
TEL 03-3436-3191　　FAX 03-3436-3190

関西支部　〒530-0001 大阪市北区梅田 2-2-22　ハービスENTオフィスタワー19F
TEL 06-4797-2070　　FAX 06-4797-2071

中部支部　〒450-0003 名古屋市中村区名駅南4-12-17
TEL 052-588-3011　　FAX 052-588-3012

http://www.logistics.or.jp